

と き：2008年(平成20年)2月21日(木) ところ：東京大学山上会館

第 4 7 回定時総会資料(1)

目 次

1. 2007年度(平成19年度)事業報告	1
2. 2007年度(平成19年度)収支計算書総括表	33
3. 2007年度(平成19年度)正味財産増減計算書総括表	34
4. 2007年度(平成19年度)貸借対照表総括表	35
5. 2007年度(平成19年度)財産目録総括表	36
6. 証 明 書	39
7. 2007年度(平成19年度)財務諸表 (一般会計)	41

SICE®

社団法人 計測自動制御学会

2007 年度（平成 19 年度）事業報告

I 概 況

1. 一般事項

2007 年度は、2006 年度に検討された事業計画を実現するために、以下のような具体的な活動を展開した。

(1) Annual Conference のさらなる国際化

SICE-ICCAS2006(韓国 Busan)の大成功を受け、さらなる進展のために初の SICE Annual Conference Steering Committee(常設で Annual Conference のキーマンで構成)が5月に開催され、今後の首都圏、地域(支部)、海外の3タイプの開催形態を考慮した今後の開催の具体的検討が合意された。その具体化として、2008 年の首都圏(電通大)開催に続き、2009 年は、福岡市で九州支部が主体となり韓国 ICROS(ICASE から改称)との2度目の共催を ICROS-SICE2009 として行うことになった。さらに、2010 年を海外開催年とし、友好学会 CACS(台北)の全面的協力を得て、台北で初の SICE 主催の海外開催を計画している。

SICE のアジア地域での中核学会としての地歩固めに向けて、SICE Annual Conference の国際化も第2フェーズに入ることになる。

(2) 英文論文集の発刊

英文論文集準備委員会が精力的に企画・準備を進め、2008 年1月17日に創刊号が発行される。発行計画が決定し、準備を進めている。2008 年は隔月刊で3号までを招待論文シリーズとし、全会員に配布する。4号からの通常の論文の投稿受付もスタートした。

(3) 学会連合の推進(横幹連合との連携強化)

これまで担当理事1人体制だったが、企画委員会、部門とも連携した委員構成を確立し、実質的な委員会活動がスタートした。2007 年度は、1) SICE2007 での横幹連合コーナーでの訴求と PR、2) 第2回横幹連合コンファレンスでの SICE City プロジェクトからの OS 企画、3) 横幹連合が経産省から再委託を受けたアカデミック・ロードマップへの協力のためにロードマップ小委員会の新設、が本格連携活動初年度のトピックスであった。

(4) 倫理規程の策定に向けて

企画委員会と連携し、倫理綱領・行動規範策定委員会が2006 年度の成果をベースに検討を進め、倫理綱領・行動規範(案)を準備した。9月19日開催の役員・評議員懇談会から全会員に公開して意見を求めた。その反映も完了したので、2008 年2月の第47回総会にて制定する予定である。今後の SICE にとって重要なステートメントとなるので、運用する委員会設置計画や規程類もあわせて準備している。

(5) 新公益法人制度対応準備

総務理事と事務局からなる準備委員会がスタートした。具体的には、事務局にて日本工学会事務研究委員会などの場も含め、1) 公益性認定要件、2) 法人組織・運営、3) 税制面での注意点を、を中心に調査活動を行い、11月の拡大理事会にて事務局より報告を行った。これまでの2009年トップランナーでの公益認定申請の構想から、2009 年度は一般社団法人みなしへの移行を進め、2010年に公益性認定申請を行い、2011年の50周年を「公益社団法人計測自動制御学会」として迎える現実的な2段階方式とする検討を進めている。

(6) IT時代の学会運営モデルの実施

開発の遅れや、SICEの体制整備の不十分な面もあり、苦勞してきたが、2007 年度の新体制 IT・学会モデル委員会でこれまでの担当理事の継続参画も得て精力的に進めた。2月の会員基本サービスのスタートから、SICE2007 での本番適用によってイベント・行事サポートに一定の実証が進んだ。論文、会誌サポートの仕様不完全も解消されて運用開始が見えつつある。また、当初計画より1年シフトした ASP 契約にもとづくアウトソーシング運用の本格化の用意も整った。

(7) SICE テクノロジービジョンの深耕

EHS(Embedded Hybrid System)プロジェクトは、調査活動のまとめをいり、次のステップとして、部門協議会の調査研究会に継承することとし、その設置提案を行った。SICE City プロジェクトは、昨年の八王子市に続いて、8月に立川市の担当者のヒアリングを行った。SICE2007 および横幹連合カンファレンスにて OS を企画してトピックスを発表するとともに、都市空間における SICE 分野の技術の貢献が見えるパラダイムを立案し検証して行く。

(8) SICE プロセス塾第2期の実施

4月17日に第1期生17名の修了式を実施した。第2期は、本格的に40名の塾生を集めて、6月4日に開校式を実施、4回のスクーリング、うち3回は合宿を2008年3月までに実施予定である。第1期での実績も含めて、ユーザ企業からも高い評価があり、募集定員30名を大幅に超えたので、2008年度はさらに充実したものにするべく検討を進めている。

(9) 技術史委員会発足

昨年度開始したオーラルヒストリー・プロジェクト(OH-pj)を含めて、2011年SICE 50周年に向けたSICEおよび関連分野の学術および技術の歴史を調査・検討しまとめる委員会を発足した。オーラルヒストリーについては、今年度2名のインタビューを実施した。

なお、OH-pjの最終年度となる2008年度は、早い時期に技術史委員会全体の実質的キックオフを行って、活動を本格的にスタートする。

(10) 50周年記念事業の検討開始

拡大理事会にて2011年SICE 50周年に向けて記念事業、記念誌発行、また、この機会に知名度向上、会員サービス、会員拡充などをねらう広報活動について議論した。さらに、企画委員会での議論により来年度に準備委員会を設置し、準備を開始することとした。

(11) 産業界からの理事会への参画促進と、産業界への貢献

今年度より産業界からの理事の増強をはかった結果、それぞれの担当会務(部門、会誌、論文集、将来ビジョン)でその成果が出始めている。また、これまで事実上担当理事1人体制だった会員・広報委員会が、関連する事業委員会、総務委員会、IT・学会モデルからの委員と、新たに、1) 産業界を含む会員増強、2) 賛助会員およびその正会員向け会員サービス、3) HPを中心とする広報の充実、を担当する専任委員を選任して本格活動に入りつつある。さらに、SICEプロセス塾の第1期修了(17名)、2007年第2期(40名受講)でのユーザを含む盛況、計測制御エンジニア制度、CPDポイント制度での活性化など教育・認定事業の成果も上がりつつある。

(12) 理事担当会務および委員会の引継ぎ

2007年度の具体的活動での特徴の1つは、2月の総会終了後に開催された第1回理事会において、3月中の理事担当会務および委員会の実質的引継ぎ完了が決定されたことで、これは総会での新体制確定から間を置くことなく活動を促進するねらいからであるが、ほぼすべての委員会で実行され、早期に具体的活動がスタートできた。

(13) 会員数の推移

2007年末の会員数を2006年末と比較すると下記の表のようになる。2006年末の対前年比では正会員の減少は189名であったが、今年度は211名の減となった。賛助会員は、理事や事務局の努力もあり下げ止まっているが退会や減口の兆しが目立つ。学生会員の就職後のフォローや定年退職を迎えるシニア会員へのサービスを強化して、会員数の回復に繋がる継続的努力が望まれる。

また、2008年度には会員増強についての具体的アクションプランを理事会のもとで実行することも検討している。

会員数の推移

	2007年(平成19年)末現在	2006年(平成18年)末現在	増 減
名誉会員	24 名	24 名	0 名
正 会 員	6,231 名	6,442 名	△211 名
学生会員	564 名	597 名	△33 名
賛助会員	206 社 260 口	206 社 260 口	0 社 0 口

2. 委員会

2.1 企画委員会

2007年度事業計画に対応した企画を推進したが、特にSICEの今後のためには、1) SICE 50周年の企画、2) SICEの将来テーマ、3) SICEのプレゼンス強化、の3つの課題が重要であると考え、2007年11月の拡大理事会で各分科会によるテーマ討議を行い、全体討論およびその後の企画委員会でそのまとめを行った。以下にその概要を示す。

(1) SICE 50周年の企画

SICE 50周年に当たる2011年のAnnual Conferenceは首都圏開催として、併設して50周年記念イベントを行う。若手からシニアまで広く参加できる行事、また、小中高校生や一般に向けてSICEの活動を紹介する行事の企画や、記念誌の発行、社会に貢献する懸賞論文、部門や支部による関連行事などの案が出された。2008年度に準備委員会をスタートして、概略計画を立案して、同年度中に創立50周年記念事業委員会(仮称)を立上げる方針が示された。

(2) SICEの将来テーマ

分科会にて、SICE 関連分野の 30 年後を見据えた研究の方向性、横幹科学技術としての SICE の方向性、学会としての SICE の 30 年後に関する議論を行った。未踏分野開拓としては、バイオ、ナノ、脳など複数学問領域との連携研究、また、産業競争力強化、新社会・生活空間の創造、モデル基盤の創出、工学教育などに関する具体的なキーワードが挙げられた。

また、将来テーマとして、1) 環境・エネルギー、2) 安全・安心、3) 極限計測、関連技術の重要性を確認した。

さらに、日本の国際競争力強化のため標準化に関する取組みは急務であり、SICE 関連分野の標準化動向の勉強を皮切りに「標準化」に関する研究会の立上げを検討する。

(3) SICEのプレゼンス強化

討論の主要なキーワードとしては、地方地元での支部活動の活性化、部門制の更なる発展、中高生あるいは一般向け教育、会員力増強、広報のあり方を挙げて、分科会にて議論を行った。部門間あるいは外部への活動の見える化、外部からの要求取得など、部門活性化に関する活動を強化する必要があるとの認識に至り、部門協議会の中に新たな委員会の設置提案を行い理事会の承認を得た。

上記以外で課題に挙がっていた項目については、各委員会での活動を企画委員会にて確認した。

2. 2 会員・広報委員会

(1) 新体制による委員会の立上げ

2007 年度より、これまで棚上げにされて来た種々の問題に対して真摯に取り組むべく、新たに 11 名の委員からなる会員・広報委員会を立上げた。これに伴い、会員・広報委員会規程を制定した。

(2) シニア層への対応

2009 年度からのシニア層への特別会費の導入を目指して、様々な角度から検討を行っている。また、シニア層へ活躍の場を提供することにより学会自体の活性化を図る方策についても検討している。

(3) 会員サービスの充実

会員に対するサービスを充実させるべく、会員へのアンケートの実施を計画しており、現在、その内容について検討中である。

(4) 会員・広報委員会主催チュートリアル講演会の実施

会員勧誘の一環として、関東地区の若手技術者・学生を対象とした第 6 回チュートリアル講演会を「未来に向かう学生、若手研究者・技術者の SICE へのいざない―制御とシステムインテグレーションの仕事は楽しく、社会に役立つ―」をテーマに 12 月 20 日に横河電機(株)本社にて開催した。

(5) 学生会員、賛助会員の入会促進および退会抑制

シニア層のサービスのみならず、学生会員や賛助会員の入会促進および退会抑制について検討中である。

(6) ホームページの改善

ホームページにおいて改善すべき点についての議論を開始した。

2. 3 学会連合推進委員会

特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)などと協力して学会横断的に活動を実施し、学術文化の向上発展に寄与するとともに、その成果を社会に還元することを目的として活動を行った。

2007 年度の報告は次の通りである。

(1) 2007 年 4 月 9 日(月)、東京大学山上会館で開催された横幹連合通常総会に出席した。

(2) 連携活動を推進するために、学会連合推進委員会規程を制定し、学会連合推進委員会を発足させた。

(3) 横幹連合の横幹ロードマップの活動の 4 つの WG の 1 つ「WG1: 制御技術・管理技術が先導する未来社会」の幹事学会として三平満司主査を支援するため、学会連合推進委員会の下にロードマップ小委員会を設置して SICE 内での情報交換を図るとともに、11 月の拡大理事会の 3 つの討論テーマの 1 つとして「SICE の将来テーマ」を提案し、横幹ロードマップ活動の中間報告とともに情報交換を行った。

(4) 横幹連合の横断型人材育成推進調査研究会(佐野 昭主査)、および、社会デザイン調査研究会

(古田一雄主査)の活動を幹事学会として支援した。

(5) 横幹連合と連携して、9月に高松で開催された SICE2007 の部門連携ポスターセッションにおいて、横幹連合の設立に SICE が大きく寄与したことを紹介する横幹連合の活動紹介を行った。

(6) 2007 年 11 月 29 日(金)、30 日(土)に京都大学で開催された第 2 回横幹連合コンファレンス「異分野をつなぐ知のシナジー」において、SICE 企画のとして SICE City 活動を紹介するオーガナイズドセッションを企画するとともに、横幹ロードマップ活動を紹介する特別セッションの中で、「アカデミック・ロードマップ:制御技術・管理技術が先導する未来社会」というタイトルで SICE が幹事学会を務める WG1 の活動報告が行われた。

(7) コンファレンスをはじめとして、横幹連合の行事について広報、勧誘をはじめとして積極的に成功に向けた支援を行った。

2. 4 IT・学会モデル委員会

2. 4. 1 学会モデル

学会運営モデルの実現に向けて、すべてのサブシステムの状況を再検討し、スケジュールの設定と進捗管理を開始した。それに基づき、以下のサブシステム開発を実施した。また、ASP 契約にもとづく学会ネット社によるアウトソーシング保守運用の開始を理事会に提案してその承認を得た。契約を 2008 年 4 月より有効とし、今後の業務移行の加速をはかる。

(1) 論文集支援システム

論文集編集委員会 IT-WG に協力いただき、β 版テストを実施した。その結果に基づき最終仕様を確定し、リリースに向けて追加修正の開発中である。

(2) 会誌支援システム

会誌 IT-WG に協力いただき、仕様を確定し、β 版テストを実施した。現在リリースに向けて開発中である。

(3) イベント支援システム

SICE 2007 in Takamatsu 向けの開発を完了し、実運用を開始した。運用結果のレビューを行い、現在汎用的なイベント支援システムに向けての仕様作成を行っている。また、各種研究会などのイベント支援システムは、昨年度に引き続き実運用を行った。

(4) 会員管理支援システム

最終仕様を確定し、リリースに向けて開発中である。

2. 4. 2 IT 化

J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)に対し、論文集および会誌のアーカイブ化支援申請を引き続き行った結果、審査により論文集の電子アーカイブ化が採択された。本年度後半より、著作権移転の通達やアーカイブ論文集などの準備を開始した。引き続き、来年以降の会誌アーカイブ化の支援申請を行う予定である。

2. 5 将来ビジョン委員会

2. 5. 1 EHS(組込み・ハイブリッドシステム調査研究会)

(1) EHS(2005/10-2007/9)の総括

1) 当初の狙い

わが国産業において組込みシステムが重要化しているとの認識に基づき、SICE として会員拡大につながるような施策を企業と各部門とが協力して立案する(参加者:自動車・電機企業代表、制御・シ情・SI 部門代表、組込みに関わる専門家)

2) 実施事項・成果

i) 産業が取り組みを希望する技術課題の抽出(システムエンジニアリング記述法の国際標準化への対応、形式手法等による解析手法、情報通信遅延を考慮した制御系設計手法等)

ii) SICE としての取り組み施策の抽出(抽出した技術課題に対する調査研究会設置、フォーラム開催、ベンチマーク問題の開発とコンペ開催、事例 DB 開発、総合科学技術会議等へのアピール、情報処理学会との連携等)

3) 会員啓蒙・学会発信を意図した EHS フォーラムの開催

(2) 組込みシステムに関する現状認識

1) 制御部門で MBD 調査研究会が発足することとなり、シ情・離散事象システム部会、SI・RT システムインテグレーション部会等 SICE 内での組込みシステムにかかわる研究推進部署が充実し始めている。

- 2) 組込みシステムが今後の日本のリーディング産業であるという位置づけは変わらず、また、この課題が情報処理技術分野のテーマ(ソフトウェアエンジニアリング, リアルタイムシステム OS, プロセッサ等)であるという社会認識もこれまでと変わっていない。
- 3) EUでの組込みシステムに関するプロジェクト ARTEMIS(Advanced Research & Technology for EMbedded Intelligence and Systems)が実働に入り始めたと同時に、米国では、NSF を中心に ARTEMIS に対抗する形で CPS(Cyber-Physical Systems)という概念が生まれ始めている。なお、2008 年度からは、EHS 活動の成果を部門協議会に設置される技術専門委員会に移管し、本格的な実効ある成果を目指す。

2. 5. 2 SICE-City

(1) 今年度報告

1) 「SICE City 構築構想」中間報告書作成

以下の報告を含めた、「SICE City 構築構想」中間報告書作成を行った。2005 年の準備委員会設置承認以降からの内容をまとめた。

2) SICE City 構築全体運営委員会

第 2 回運営委員会が 2007 年 9 月 19 日に開催され、理事会報告、「どこにいても『繋がる』安心システム研究部会」報告、「人間計測・誘導技術を用いた安全安心社会構築」報告、SICE 2007 in Takamatsu と第 2 回横幹連合コンファレンスの OS 構成一覧が報告された。また、中間報告書の目次案などについて議論を行った。

3) どこにいても『繋がる』安心システム研究部会

第 3 回会議を 2007 年 8 月 30 日に実施し、自己紹介などを行い、活動内容に関する自由討論を行った。具体的には、立川市役所殿の防災/IT インフラ整備による安全・安心への取組み、立川市の防災推進等について議論を行った。

4) 人間計測・誘導技術を用いた安全安心社会構築研究部会

第 2 回会議を 2007 年 2 月 2 日に実施し、関連する研究についてのプレゼン 3 件および討議を行った。第 3 回会議を 2007 年 5 月 22 日に実施し、関連する研究についてのプレゼン 4 件および討議を行った。第 4 回会議を 2007 年 9 月 20 日に実施し、関連する研究についてのプレゼン 2 件および討議を行った。また、「リレー解説のテーマ」「横断的ロードマップ」「中間報告書編集」等の議論も行った。

5) 2007 年 9 月 17 日(月)～20 日(木)に開催された SICE 2007 in Takamatsu において OS を企画し、5 件の発表を行った。2007 年 11 月 29 日(木)、30 日(金)に開催された第 2 回横幹連合コンファレンスにおいて OS を企画し、5 件の発表を行った。

6) 自治体との連携(八王子市、立川市、日野市他)

2. 6 学会賞委員会

(1) 論文賞等の選考

論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞それぞれの候補を選考し、理事会に報告した。この選考にあたっては、部門制度に対応した計測、制御、システム情報、システムインテグレーション、産業応用の 5 分野のカテゴリーで評価した。

(2) SICE Annual Conference Award の受賞者決定と表彰

SICE Annual Conference Award 運用規則に基づき、選考委員会を組織し(委員長 京都大学・杉江俊治氏)、International Award および Young Author's Award の受賞者を決定、9 月 20 日の Closing Session で表彰し、理事会に報告した。

(3) 学術奨励賞の選考

学術奨励賞候補の選考を行い理事会に報告した。

2. 7 国際委員会

「計測・制御・システム情報分野におけるアジアの中核学会を目指す」という中長期ビジョン(2002 年 11 月開催の拡大理事会)のもと SICE Annual Conference の改革を中心に国際化を進める活動を行った。

(1) SICE2007

- 1) 2007 年 9 月 17 日(火)～20 日(木)、香川大学(高松市)にて開催。参加者 16 カ国 902 名(うち海外 131 名)。論文投稿数 670 編(15 カ国)、採択論文数 584 編。大学の建物の改修工事中で不便をかけるのではないかと心配されたが、会議は盛況であり、前年度の韓国での ICASE(現 ICROS)との Joint Conference に続き、国際会議として定着したと考えられる。

- 2) International Award : 2 件, Young Author Award : 1 件を贈呈。
- 3) 学会モデルシステムを用いて, 論文投稿, 査読, 最終原稿受理等を行った。問題点等を整理し次回に向けての改善案を検討した。
- 4) 部門主催のポスターセッション, ワークショップを併設行事として行った。
- (2) 今後の SICE Annual Conference について
 - 1) Steering Committee で今後の開催について検討。
 - 2) SICE2008 は 2008 年 8 月, 電気通信大学で開催。準備を進めている。
 - 3) SICE2009 は福岡国際会議場で 2009 年 8 月に開催予定で, 準備を開始した。これを韓国の ICROS と共催で行うことを ICROS, SICE の実務者(国際委員会)レベルで合意。今後詳細を検討して, 正式決定の予定。
 - 4) SICE2010 は当初, 中国での開催を考え, 検討を行ったが, まだ中国との協力関係が不十分のため, 中国とは今後, 協力関係を深めていくこととし, 2010 年はこれまでに関係の深い台湾で行う方向で話を進めている。
- (3) 国際研究集会の主催・共催

依頼された国際研究集会の主催, 共催, 技術主催/共催, 協賛事項に関して審議・承認を行った。理事の中から, 共催・協賛する主要な会議への出席予定者をリストアップし, 下記の会議で SICE の代表者として挨拶などを通じ SICE の存在をアピールしていくことに務めた。

 - 1) International Conference on Control, Automation and Systems 2007 (ICCAS2007), 10 月 17 日(水)~20 日(土), Seoul, Korea
 - 2) The 2007 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS2007), 10 月 29 日(月)~11 月 2 日(金)・San Diego, U.S.A.
 - 3) 2007 CACS Automatic Control Conference (CACS2007), 11 月 1 日(木)~3 日(土), Taichung, Taiwan
 - 4) The 33rd Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IECON'07), 11 月 5 日(月)~8 日(木), Taipei, Taiwan
 - 5) The 46th IEEE Conference on Decision and Control (CDC), 12 月 12 日(水)~14 日(金), New Orleans, U.S.A.
- (4) 海外学術団体との連携

ICROS(旧 ICASE)とは SICE2007 および ICCAS2007 の機会に打合せを行い, 今後の協力について協議した。特に, SICE2009 を共催する方向で合意した。中国については, どことどのように協力していくか, 中国での会議(The 26th Chinese Control Conference)に参加された SICE 会員の方に情報提供をお願いして, 検討を進めた。第一段階として, 部会や部門のレベルでのシンポジウム・ワークショップの共催や Annual Conference でのオーガナイズドセッションでの協力を進めて, それを手がかりに連携を考えていこうということになった。
- (5) 部門・部会との関係

SICE2007 には各部門からトラックチェアを出していただき, 論文投稿の勧誘, 採否判定, プログラム作成に協力していただいた。また, 各部会にはプログラム委員の推薦, およびオーガナイズドセッションの企画をお願いした。また, 部門連携ポスターセッション, ワークショップを SICE2007 の際に併設行事として行ってもらい, 連携を深めた。

2. 8 出版委員会

計測・制御テクノロジーシリーズの刊行が継続中であるが, 2007 年度は見るべき進捗がなかった。2008 年度の早い時期に今後の取り扱いも含めて検討する必要がある。

IT・学会モデル委員会が中心となって, 学会誌, 論文誌のアーカイブ化を検討してきたが, 幸運にも論文誌が独立行政法人・科学技術振興機構(JST)アーカイブ化事業の 2007 年度対象誌に選定され, 2008 年よりアーカイブ化の実作業がスタートする。

2. 9 事業委員会

事業委員会のミッションは, 会員サービスの拡充と非会員に対する教育・啓発活動を行うこととし, 従来からの活動を引き継ぎながら, 新しい活動を企画・実施した。

(1) SICE Week 2007

SICE2007 が 10 月 18 日(水)~21 日(土)に高松市で開催された。SICE は, この機会を利用し, 開催地域の小学生, 高校生などへの「計測と制御」に関する教育・啓発活動を行うため, 8 月 20 日に「SICE 夏休みこども工作教室」を実施した。101 名の参加を得たが, 実施後のアンケート調

査によると 90%を超える参加者から強い支持を得たことから事業は成功であった。SICE2007 期間中の 9 月 18 日と 19 日に高松市立高松第一高等学校および香川県立高松高等学校において英語による講演会を実施した。国際的に著名な研究者である Alain Poncet 先生, Günther Schmidt 先生による

- 1) Basics of superconducting magnets and 1.9K cryogenics
- 2) Robots for the benefit of human

の講演会は、英語での質疑のサポートなど課題はあるが、両校合わせて約 160 名の参加者となり、好評であった。

(2) 第 50 回自動制御連合講演会

第 50 回自動制御連合講演会は 6 学会の共催で 11 月 24 日(土), 25 日(日)に慶応義塾大学日吉キャンパスで開催された。幹事学会は日本機械学会であった。実施体制は以下の通りである。運営委員会委員長 田川泰敬氏(東京農工大学), 実行委員会委員長 水野 毅氏(埼玉大学), プログラム委員長 横山 誠氏(新潟大学)。SICE から例年通り事業委員長が運営委員として参加した。講演 245 件であった。50 回の記念すべき講演会であり, SICE 事業委員会企画のオーガナイズセッション「日本発の制御理論・制御技術」が実施され, 4 つの基調講演と 3 つの一般講演があり, 多くの聴講者があった。また, 第 1 回参加者による連合講演会の変遷についての特別講演とパネルディスカッションがあり, 講演会の歴史を振り返った。

(3) SICE 標準・規格に関する委員会

SICE が事務局を担当する JIS 規格 3 件については担当を継続した。

(4) 自動制御連合講演会の運営についての新しい体制について

学術会議の中に従来あった自動制御研究連絡委員会に相当する委員会を学術会議総合工学委員会の下に設置することについて検討する委員会として自動制御連合講演会常設運営委員会準備委員会が前期に引き続き開催された。SICE の準備委員として永井正夫氏(東京農工大学), 鈴木昌和氏(東海大学), さらに事業委員会から大日方五郎氏(事業委員長, 名古屋大学)が出席した連合講演会拡大運営委員会において, 自動制御連合講演会の運営に関する新しい体制として学術会議総合工学委員会の下に「自動制御の多分野応用小委員会」を設置し運営することに関し以下の合意が得られた。

- 1) 2008 年 4 月より, 自動制御連合講演会運営委員会は新体制で運営を行う。
- 2) 新体制(日本学術会議・自動制御の多分野応用小委員会)の委員の交代は, 各学会の要請に応じて柔軟に行う。ただし, 日本学術会議は 3 年周期で運営されており, 2008 年 10 月が委員の交代時期であることを考慮することとした。
- 3) 自動制御連合講演会規定および自動制御連合講演会運営委員会規程は, 新運営体制で最終案を確定することとした。また, 運営委員会の委員の任期等を規程に明記することとした。
- 4) 2008 年 4 月より, 2008 年 10 月までは日本学術会議・自動制御の多分野応用小委員会の設置申請者である小林尚登委員(法政大学)を新体制の委員長とすることとした。
- 5) 連合講演会の実施に関しては, 幹事学会および実行委員長に実務をすべて委任することとした。参加学協会への呼びかけ, 分担金の供出要請などの定常業務は, 新体制の委員長名で幹事学会事務局が従来通り行うこととした。
この小委員会の委員は, 過渡期を例外として直近の事業委員長経験者が 2 年任期で就任することとした。

(5) 新しい活動に向けて

拡大理事会等の議論を基に, 計測と制御に関する啓発手法を議論した。小学生から高校生までへの啓発活動のあり方や, それに関連してシニア会員の知識や経験を活用する方法などについて議論した。また, SICE 賛助会員, SICE シニア会員向けの新しいサービス企画について議論した。SICE プロモーションビデオの作成については, 理事会に対し 50 周年記念行事に加えることを提案した。

2. 10 教育・認定委員会

教育・認定委員会では, 会員に対する教育・認定事業を幅広く行うこととし, 委員会規約を策定して, 下記の 4 つの WG を設置し事業活動を具体的に実施した。

(1) CPD WG

2007 年度の CPD ポイント申請者は 34 名。審査の結果 34 名とも承認し, 会告に従い特典の付与と上位 4 名に対して SICE 2007 in Takamatsu で, 表彰状を授与した。しかしながら申請者は, 昨年度に比べ大幅に増えたとはいえ, まだまだ少ない。原因は申請方法の煩わしさにあると判断,

講習会受講時等に自動申請できる『CPD ポイント管理システム』の構築計画を昨年度に引き続き行った。本システムは学会運営モデルの中に構築され、2008年度9月から運用される予定である。

(2) 計測制御エンジニア試験・認定 WG

- 1) 「計測制御エンジニア試験」を実施、推薦認定試験及び学力認定試験を3回実施した。
2008年1月初めに実施される2007年度の総括試験には13名で全資格・試験種別への受験申請があり、制度の定着の兆しがうかがえる。
- 2) 東京以外での試験を検討してきたが、2008年3月に九州地区(福岡市)での実施計画を立案し、受験者を募集中である。
- 3) 認知度向上を目的に、会誌に今年の合格者を紹介した。
- 4) 計測制御エンジニアは約200名となり、今年度で推薦認定入試は原則、廃止することにした。
計測制御エンジニア WG の名前は、計測制御エンジニア会と名前が類似しており混乱を招く可能性があるため、計測制御エンジニア試験・認定 WG と改名した。
- 5) 2006年度に、計測制御エンジニア制度へのこれまでの功績が極めて顕著で、今後とも貢献が確実な者に功績計測制御エンジニア資格を与え、計測制御エンジニア集団の活性化と将来の大型人材育成をはかることとしたが、2007年度に2名の推薦があり、認定された。初の功績計測制御エンジニア(江木紀彦氏、永島 晃氏)の誕生である。

なお、計測制御エンジニアの自立的組織である SICE 計測制御エンジニア会は本委員会傘下組織ではないが、計測制御エンジニアの増加と活躍によって実質的活動の成果が上がり、2007年10月30日に実質的な発足総会を開催、館会長出席のもと会則を採択し本格活動に入った。本委員会も委員会メンバーも積極支援を行った。

(3) 技術者能力開発(PDE)協議会対応 WG

本年継続して委員会へ出席し、各学会の教育体制について意見交換を行った。継続教育の受講履歴統一化に関する検討報告書を解析し、SICE の CPD 推進が、他学会に比べ、先行していることを明らかにした。

(4) JABEE WG

機械・電気分野審査委員会などに委員として参加し、積極的に提言を行うとともに、SICE 関連分野での受審に不利にならないよう審査員養成を推進した。SICE 関係者で JABEE 審査に協力している会員の名簿管理を行った。

2. 1.1 会誌編集委員会

SICE 会員への有用な学術・技術情報・学会情報の提供、会員間の意見交流を目的とし、とくに、会員・非会員を問わず、SICE の活動について広く情報発信するメディアとして活用される会誌を目指し、半数以上の産業界からの委員をもって編集委員会を構成し、会誌「計測と制御」を年12回発行した。具体的な実施項目を以下にあげる。

- (1) 大学人や学生だけでなく、産業界向けにも有用な情報を提供する記事の自主投稿を増やすための具体案として、以下のことを実施に移した。
 - 1) 博士課程修了学生からの学位論文を基盤にした総合的解説記事の投稿の機会を設けること
 - 2) 企業会員が興味をもつ特許技術の解説記事の投稿の機会を設けること
- (2) SICE が専門とする学術情報・SICE の活動状況などを適時に発信する活動を行った。
 - 1) 学術情報を発信するために、特集・ミニ特集の'09年5月号分までを企画し、'08年11月号分までの企画を具体化中
 - 2) SICE City の活動成果をリレー解説記事化できるようにするための編集体制づくり
- (3) 解説記事の内容が、技術者倫理、知的財産権、製造物責任などに、可能な限り抵触しないようにするために、これらの項目に関するチェックリストの提出を著者にお願いすることを開始した。
- (4) 会誌編集の IT 化(学会モデル)による編集システムについて、編集委員会としての仕様を取りまとめ、IT・学会モデル委員会を通してシステム作成業者に提出し、これを受けて業者が作成した編集システムの試験運用を試みて、その修正作業を依頼する段階まで進んだ。
- (5) 会誌編集を行うために、年6回の編集委員会と、特集号企画についての議論を集中的に行う泊り込み企画会議1回を開催した。
- (7) 広告の掲載を増やすための検討を行い、広告代理店との協議を行うことも開始した。

2. 1.2 論文集委員会

論文集委員会は質の高い学術論文をできる限り迅速に定期発行することを第一の使命とする。こ

れを達成するために、従来通り、部門制に対応した運営のもと、適切な査読者の選定、論文査読状況の管理などの定常的な業務を着実に遂行した。また、部門との連携のもと、論文集特集号の企画を通して投稿論文を増やす努力を継続して行い、昨年度に引き続いての SI 部門および計測部門からの特集号に加え、システム・情報部門からの特集号の企画も行った。

これら定常的な業務に加えて、論文集の査読全般に関してさまざまな観点から継続的に議論を行い、改善を図った。主要なものは以下の 2 項目である。

- 1) 査読に要する期間が長引くケースがある問題に関して従前からなされてきた改革の流れを押し進め、昨年度来行われてきた要因分析に基づき、査読時の判定の 4 段階化(従来は 3 段階)を実施した。採否決定までの時間短縮、ならびに、採録に際しての要修正事項をより明確化できることを目指したものである。これにより、2007 年度に投稿された論文のうちすでに採否の決定したものに対しては、平均して 4.8 ヶ月(昨年度実績は 5.4 ヶ月)で、また 76%(昨年度 61%)が半年以内、96%(昨年度 94%)が 8 ヶ月以内に採否決定に至るという迅速化が図れた。なお、2007 年度に投稿された論文のうち、57%(昨年度 46%)が半年以内に、また、85%(昨年度 70%)が 8 ヶ月以内に採否決定されている(それぞれ、投稿から半年および 8 ヶ月以上経過した論文について)。
- 2) 本学会全体として取組んできたリスク管理への対応を行った。具体的には、著作権や二重投稿等に絡む問題や法令上、倫理上の問題等の発生を回避するために、投稿規程の改訂、ならびに、論文投稿時と最終原稿送付時における全著者との確認書のやり取りを実施に移した。一方、IT 化に関しても力を注ぎ、山積するいくつかの問題に一定の区切りをつけた。具体的には、以下の 2 項目が挙げられる。
 - i) Web ジャーナルとしての英語論文集の発刊から数年経過以降、諸般の事情により発行がほとんど滞っていたが、新たな英文論文集発刊の決定を受けてその扱いについて検討した。具体的には、これまで滞っていたすべての年度分についての処理を進め、その発展的解消を完了した。
 - ii) 学会モデルに基づく Web ベースの査読システムの立上げについて継続的にテスト作業・改善要求ならびに開発会社との打合せを行い、初期システム立上げの前段階としてはほぼ最終段階といえるところまで導いた。

2. 1 3 産業論文委員会

- (1) 本年度は 30 件の投稿を得た。うち 11 件を採録・Web 掲載発行した。2002 年創刊からの総採録件数は 64 件となった。
- (2) 本年度から体制強化された事務局により、査読プロセス作業の確実性が増した。
- (3) 査読効率化のため昨年度から導入された論文管理システムは、適宜、改造を加えながら順調に運用を続けている。

2. 1 4 英文論文集準備委員会

英文論文集準備委員会を 4 月に発足させ、5 回の準備委員会と 1 回の拡大準備委員会を行って、2008 年初めの創刊に向けて、発行形態や編集方針と手順、諸規程などを具体的に決定するとともに、論文募集を開始した。

論文集の名称は「SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration (略称: SICE JCMSI)」であり、当初は冊子形態とし隔月に発行、毎号 10 編程度の論文の掲載を予定し、最初の 3 号は招待論文を中心に編集している。Editorial Board を構成する Editor-in-Chief, Editor, Associate Editor の選任は 8 月までに完了した。そして 9 月には、「計測と制御」誌上にて創刊予定をアナウンスするとともに英文論文集ホームページをオープンし、SICE Annual Conference 2007 in Takamatsu にて Call for Papers を配布して、一般論文の投稿受付を開始した。

その他、部門大会や関連の国際会議などでも引き続き Call for Papers の配布を行い、一般論文の投稿を呼びかけている。なお、一般論文の掲載料などは現行の論文集と同水準である。

以上の精力的な準備の成果として、創刊号が、2008 年 1 月 17 日に発行され全会員を含む SICE の国内外の友好機関などに配布される。SICE の国際化にとっても、会誌、論文集に続く久々の定期刊行物の新刊という意味でも大きな意義のあるマイルストーンの 1 つとなる。

2. 1 5 倫理綱領・行動規範策定委員会

本委員会は、2007(平成 19)年第 1 回理事会(2 月 22 日)において、2006 年に活動した「倫理綱領・行動規範策定準備委員会(委員長: 舘 暉氏(現会長))」を解散させ、本委員会(委員長: 久間和生氏(副会長))にその業務を継承させることの承認を得て発足した。本委員会発足の背景として、

- 1) 日本学術会議は、2006 年 10 月に声明「科学者の行動規範」を策定し、各学協会がこれを参照しながら学協会独自の行動規範を策定することを要望している
- 2) 新公益社団法人への移行を控えて、本学会の社会的責任の明確化が求められている
などが上げられる。このような背景の元で、本学会の事業と活動において公正な公益性を確保するため「倫理綱領・行動規範」の制定が必要とされる時期となった。

本委員会では、計測自動制御学会の倫理綱領・行動規範の原案を策定するばかりでなく、継続的な改善・点検、教育・研修・啓発、事例収集・整理、遵守のための活動を行う組織を構築し、また、違反行為に対する対応措置制度を確立することを目的としている。

下記に上げる協議を経て、最終的に、「社団法人 計測自動制御学会 倫理綱領・行動規範(案)」, 「社団法人 計測自動制御学会 倫理委員会に関する規程(案)」, 「社団法人 計測自動制御学会 会員の不正行為の調査・審理に関する細則(案)」を 2008 年 2 月の第 47 回定時総会にて承認されるように提出した。本件が承認された時点で、本委員会は解散し、理事会直属の倫理委員会(常設)に業務が引き継がれ、今後は、時代背景や会員からの意見などに基づいて、継続的に本件の点検・改善されることとなる。

(協議経過)

- 1) 2007 年 2 月 22 日(第 1 回理事会): 2006 年度の倫理綱領・行動規範策定準備委員会は解散し、その業務を、倫理綱領・行動規範策定委員会(委員長: 久間和生氏(副会長))に承継。
- 2) 2007 年 3 月 30 日: 倫理綱領・行動規範策定委員会の事前打ち合わせ
- 3) 2007 年 4 月 23 日: 第 1 回倫理綱領・行動規範策定委員会開催
- 4) 2007 年 6 月 25 日～7 月 2 日: 理事会メンバーからの意見徴収期間
- 5) 2007 年 7 月 30 日(第 2 回倫理綱領・行動規範策定委員会): 理事会(8 月 1 日)の原案の委員会承認
- 6) 2007 年 8 月 1 日(第 3 回理事会): 役員・評議員懇談会・意見徴収のための原案の理事会承認
- 7) 2007 年 9 月 19 日(SICE 2007 in Takamatsu の役員・評議員懇談会): 意見徴収
- 8) 2007 年 11 月 5 日: 会員からの意見徴収開始
- 9) 2007 年 11 月 17 日: 拡大理事会にて現状報告・協議
- 10) 2007 年 11 月 24 日～11 月 30 日: 委員会によるメール審議: 理事会(12 月 19 日)の原案の委員会承認
- 11) 2007 年 12 月 19 日(第 6 回理事会): 定時総会のための修正原案の協議・承認
- 12) 2008 年 2 月: 第 47 回定時総会にて最終案の提出

2. 1 6 SICE プロセス塾委員会

第 1 期 17 名の塾生に対しては、3 月 29 日(木)午後～30 日(金)午前に、財団法人国際環境技術移転研究センター(ICETT 四日市)にて第 2 回スクーリングを実施。第 1 期は半年間に 2 回のスクーリングで終了して、4 月 17 日に修了式を実施した。

第 2 期は、本格的に 40 名の塾生を集めて、6 月 4 日(月)に開校式を実施、4 回のスクーリング、うち 3 回は合宿を 2008 年 3 月までに実施予定である。カリキュラムを以下に示す。

通信講座・・・i) プロセス制御(講師: 伊藤利昭氏, 重政 隆氏), ii) PID 制御の実際(富田芳生氏), iii) プラント計装(末続 靖氏), iv) プロセスのモデリング(橋本芳宏氏, 加納 学氏), v) モデル予測制御(小河守正氏)。

スクーリング・・・第 1 回(8 月下旬): 塾長北森俊行先生講義とプロセス制御, 第 2 回(10 月下旬): PID 制御の実際とプラント計装, 第 3 回(12 月中旬): プロセスモデリング, 第 4 回(2008 年 3 月上旬): モデル予測制御と特別講演。

なお、修了生には SICE 計測制御エンジニア補の資格を授与することになっているが、その認定・登録の具体的手続きを教育・認定委員会に依頼した。2008 年 2 月の第 47 回定時総会において、第 1 期修了生に対して認定証が授与される。

2. 1 7 SICE 技術史委員会

本委員会は、これまでのオーラルヒストリー・プロジェクト(OH-pj)を含めて、2011 年の 50 周年に向けた SICE および関連分野の学術および技術の歴史を調査・検討しまとめる委員会として、8 月 1 日の理事会で発足が承認された。委員長に示村悦二郎氏(SICE 元会長), 副委員長に江木紀彦氏(SICE 元会長), 幹事に本多 敏氏(慶応義塾大学), 大谷哲也氏(横河電機)をお願いした。

OH-pj の最終年度である 2008 年はじめに、各部門代表委員を含む SICE 技術史委員会の全体キッ

クオフを行う予定であり、その委員募集と目標・マイルストーンなどの検討を行った。

2. 18 総務委員会

関連委員会、事務局と連携して、主に以下の業務を行った。

- (1) 第1回理事会決定に従い、3月中の理事担当会務および委員会の実質的引継ぎを支援して、その結果、ほぼすべての委員会で実行され、早期に具体的活動がスタートできた。
- (2) 新公益法人化に向けて、予算精度の向上と予算実績のリアルタイム管理に近づけることを目標として、来年度から部門単位での予算精度の向上と実績管理をお願いした。
- (3) IT・学会モデル委員会に参画し、学会モデルシステムのASP契約への移行に協力した。
- (4) SICE 50周年に向けて技術史をまとめる技術史委員会の発足を提案して、オーラルヒストリーもこの中の活動に位置づけた。本年度のオーラルヒストリーは、2名からヒアリングを行った。
- (5) これまで事務局においてパートタイム職員にて補充していた論文集編集業務のレベル向上を図るため、論文集担当職員の新規採用を行った。
- (6) 2005年人事院勧告の過渡期の完了に合わせ、職員の採用、昇給、昇級および役職昇格についての規定を明確にする職員に関する規程の改正を行った。運用内規の制定を行い初任給、昇給、昇級および役職昇格の基準を定めて職員人事の仕組みを強化した。

3. 部門協議会

部門制の移行8年を経た現在、部門制がSICEの基幹体制として定着してきている一方、足元を固める時期が来ているとの認識の下、2007年度は、部門運用体制を見直し、部門の活動をさらに活発化させるとともに、社会の期待に応える新規分野の開拓・推進等を通してSICEが担う分野の発展に貢献した。以下、項目ごとに報告する。

(1) 部門活動の活性化

各部門のミッションおよび将来ビジョンを明確にし、分野別技術と分野横断型技術を一層生かして各部門が独自性持って活動を発展させるよう協議会運営に努めた。またこの事を、広く周知させるため、学会誌に各部門の紹介記事を掲載することにした(2008年4月号予定)。

(2) 部門の連携活動

部門協議会内に部門連携推進ワーキンググループを設置し、これまで各部門が独自に行っていたため見えなかった同じ分野の活動を連携させ、SICEの重要分野として活動の促進、学会外部へのプレゼンスの強化などを促進するための検討を行い、以下を実行した。

- 1) SICE 将来ビジョンの1つ「先端未踏分野開拓」の具現化として、各部門に散在するライフサイエンス関連部会の活動を結集してSICEのライフサイエンス分野を一層活性化するため、部門の枠を越えた当該分野の部会が強固な連携を図れる環境構築を開始した。具体的には、SICE2007の併設行事として「ライフサイエンスを考える 一部門連携に向けて」と題してワークショップを開催した。またSSI2007においてライフサイエンス関連のオーガナイズドセッションを部門横断で企画、開催した。

- 2) より幅広い部門間交流の可能性を探るため、“どのような部会がどのように活動しているのかを知る機会”として、SICE2007の併設行事として全部会・調査研究会の活動を紹介するポスターセッションを企画し開催した。また各部会・調査研究会が作製したポスターを広報に有効に活用するため、ホームページに掲載した。

上記のワーキンググループの1年の活動を踏まえ、今後継続して「部門間の連携」、「新分野のインキュベーション」、「学会外部へのプレゼンスの強化」などの活動を遂行するため、部門協議会内に必要な委員会を設置し、部門協議会を組織化することにした。具体的には、部門連携・活性化委員会と、その傘下に2つの技術専門委員会(ライフサイエンス、組込みシステム)を設置し、活動していくことにした。

(3) 学会内外との積極的な協力

会誌編集、論文集、産業論文等各委員会への委員派遣等、他委員会との協力を積極的に図った。SICE2007では各部門からオーガナイズドセッションを積極的に企画し、その成功に大いに貢献した。また部門より論文誌に特集号を企画することにより、論文誌の活性化に貢献した。また、国際委員会と連携しSICEの国際化にも寄与するとともに、部門独自で国際シンポジウムを開催するなど、部門の国際化も行った。

(4) 広報活動・会員サービスの充実

全部門がホームページを持ち、各部門広報委員を中心に広報活動を充実させ、SICE会員増を目指した。部門賞や部門の主催行事や共催行事における賞の継続や新設を行い、会員サービスをさらに

充実させた。学生・賛助会員に向けての行事参加費のサービス拡充、計測制御技術の幅広い認知のための講習会への講師派遣など、SICEのPRや会員増加に向けて様々な試みを実施した。

(5) 学会モデルシステムの拡充・定着

様々な部門行事に学会モデルシステムを適用し、その拡充・定着に積極的に寄与した。各部門行事のIT化や部門のホームページを充実させ、部門活動をさらに活性化した。

3. 1 計測部門

計測技術は科学と産業の発展に必要不可欠で、社会の安全・安心に資する基板技術である。計測部門は、計測技術の開発、進歩、普及に寄与するための活動を継続して行うとともに、新しい技術を用いた計測手法の開発や新たな計測分野の開拓に関して専門的な活動を行った。

1) 研究活動の場と情報の提供

第24回センシングフォーラム(計測部門大会)、傘下の部会・調査研究活動(共催・協賛行事)、講習会、研究会、見学会、見学会などを実施した。また、SICE2007では計測部門としては13のOSの企画を行った。

2) 部門および部会・調査研究会の活性化への取組み

今年度は「安全・安心のための先端センシング技術」というテーマで論文集の特集号を企画し、論文集の9月号に8件掲載された。また、第24回センシングフォーラムにおいて、特集号に掲載された論文の著者による招待講演を企画し、参加者と著者との意見交換がなされた。

3) 部門運営に関するトピックス

定例常設の部門運営委員会などによる企画・検討を精力的に進めるとともに、特に部門連携事業に同期して、各部会・調査研究会の間での連携が大きく進展した。

主な事業内容は次の通り。

(1) 第24回センシングフォーラム(計測部門大会)

10月25日(木)、26日(金) 場所：東北文化学園大学 講演数：70件 参加者：120名

特別講演：東北大学大学院 江刺正喜氏 「MEMS(微小電気機械システム)における産学連携」

(2) 部会・調査研究会行事 16回

- | | |
|-----------|----|
| 1) 講演会 | 5回 |
| 2) シンポジウム | 3回 |
| 3) 研究会 | 5回 |
| 4) セミナー | 1回 |
| 5) 見学会 | 3回 |

(3) 共催・協賛 3回

(4) 部門運営に関する委員会など

- | | |
|------------|-----|
| 1) 部門運営委員会 | 3回 |
| 2) 部会運営委員会 | 19回 |

(5) 部門賞

- | |
|--|
| 1) 技術賞：石原卓也氏(山武) |
| 2) 奨励賞：岩本貴之氏(東京大学)、樋口裕也氏(名古屋工業大学)、伊藤健一氏(名古屋工業大学)、
本田誠一氏(大阪大学) |

(6) 部会講演会等の奨励賞・技術賞

第12回パターン計測シンポジウム優秀論文賞：

「近距離照明を用いた3次元物体の物理特性計測システム」牧野貴雄氏、本間隆介氏、高瀬紘一氏、津村徳道氏(千葉大学)、小島伸俊氏(花王)、中口俊哉氏、三宅洋一氏(千葉大学)

3. 2 制御部門

当部門は、制御理論および制御技術の研究者、技術者、学生を主な対象として、魅力ある活動を展開することを目標に、以下の事業を展開した。

1) 研究活動の場と情報の提供

制御部門大会、傘下の部会・調査研究活動、講習会、研究会、見学会などを実施した。特に今年度は制御技術分野の活動活性化のための議論に重点をおいた。また、部門のHP Webを整備し、これを通じての広報・情報提供にも目立った進展があった。

2) 部門および部会・調査研究会の活性化への取組み

部門大会と同時に併設のワークショップを企画・実施した。ここで、JAXA 実験用航空機および飛行シミュレータの紹介・研究、および、制御系における信号・システムの複雑性に関して講

演を実施し、制御技術・理論両面の最新動向を紹介した。また、SICE セミナー「制御のためのシステム同定 in 中部」を実施し、支部との連携活動の先鞭をつけることができた。これらを通じて SICE の正会員、学生会員、賛助会員の増強にも寄与することができた。

3) 部門運営に関するトピックス

企画将来構想検討委員会を特に設置し、制御技術分野の更なる活性化を目指した活動のあり方、適切な組織のあり方について検討を実施し、活性化の方向について大筋を取りまとめた。主な事業内容は次の通り。

(1) 制御部門大会

- 1) 3月6日(火)～8日(木) 場所：電気通信大学 講演数：186件、参加者：344名
特別講演：東京大学人工物工学研究センター 浅間 一氏、「身体・脳・環境の相互作用による適応的運動機能の発現－移動知の構成論的理解－」

(2) 部門主催セミナー・講習会 10回

- 1) 1月18日(木)～19日(金), 「アドバンスト制御－基礎・先端・応用－」
場所：大阪大学中之島センター 参加者：28名
- 2) 3月5日(月), 「第7回制御部門ワークショップ」
場所：電気通信大学東5号館 参加者：48名
- 3) 4月23日(月)～24日(火), 「制御のためのシステム同定」
場所：東京電機大学工学部神田キャンパス 参加者：75名
- 4) 9月18日(火), 「IEEE 制御部門論文賞受賞記念」
場所：香川大学 参加者：28名
- 5) 9月13日(木)～14日(金), 「現代制御理論入門」
場所：東京工業大学 参加者：38名
- 6) 9月13日(木), 「状態推定法の最近の話題」
場所：東京電機大学7号館 参加者：32名
- 7) 11月13日(火), 「知的システム」
場所：京都大学百周年時計台記念会館 参加者：18名
- 8) 11月20日(火)～21日(水), 「実践的な制御系設計」
場所：銀杏会館 参加者：66名
- 9) 12月6日(木)～7日(金), 「制御のためのシステム同定 in 中部」
場所：名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリーベンチャーホール 参加者：56名
- 10) 12月6日(木)～7日(金), 「実践的な制御理論」
場所：東京農工大が字11号館多目的会議室 参加者：43名

(3) 部会・調査研究会行事 13回

- 1) 1月29日(月)～30日(火), 「第7回適応学習制御シンポジウム」
場所：首都大学東京国際交流会館 参加者：51名, 発表件数：28件
- 2) 9月5日(水)～7日(金), 「第36回制御理論シンポジウム」
場所：ライフポート札幌 参加者：177名, 発表件数：111件
- 3) 10月25日(木)～26日(金), 「第24回誘導制御シンポジウム」
場所：長野市ものづくり支援センター 参加者：38名, 発表件数：24件

(4) 部門運営に関する委員会など

- 1) 部門運営委員会 4回
- 2) 制御理論・技術部会運営委員会, 事業委員会, 学術委員会, 企画運営委員会など開催

(5) 部門賞

- 1) パイオニア賞：藤本健治氏(名古屋大学)
- 2) 第6回制御部門大会賞：東 俊一氏(京都大学), 望山 洋氏(名古屋工業大学)

3.3 システム・情報部門

当部門は、主に、基礎理論から工学的実システム、さらには社会経済システム、生命システムなど多様な広がりを持つシステム・情報分野の研究者、技術者、学生を主な対象として、SICE の会員にとって魅力ある活動を展開することを目標に、以下の事業を展開した。

1) 研究活動の場と情報の提供

システム、情報部門大会(学術講演会)、傘下の部会・調査研究活動(共催・協賛行事)、講習会、研究会、見学会、見学会などを実施した。また、ホームページ Web を通じての広報・情報提供にも目立った進展があった。

2) 部門および部会・調査研究会の活性化への取組み

部門大会(学術講演会)において、部門の通常セッション以外にもライフサイエンス系部会の企画セッションを実施した。若手・学生向けの生体医工学サマースクールや創発システムシンポジウムなどを通じて部門の将来に向けた試みにも成果があった。第2回移動知国際シンポジウム in 淡路を共催することで、システム・情報分野における国際化にとって大きな役割を果たした。

3) 運営に関するトピックス

今年度より新たにイノベティブコンピューティング調査研究会を立上げ、さらに部門の活動活性化を図った。また、各部会・調査研究会の間での連携を強化し、部門として一体となった活動を推進するための常設委員会設置の検討を進め、部門の企画・検討を精力的に進める体制の構築に努めた。

主な事業内容は次の通り。

(1) システム・情報部門大会(学術講演会)

1) 11月26日(月)～28日(水), 場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター, 講演数: 109件, 参加者: 168名

招待講演: 東京農工大学 学長 小畑秀文氏「医用画像の診断支援技術の現状と動向」

特別講演: 玉川大学 大森隆司氏 「他者理解の情報処理モデル」

トピックス: ライフサイエンス系部会の企画セッションを実施した。

(2) 部門共催・協賛行事 1回

1) 7月18日(水)～20日(金), 「第2回移動知国際シンポジウム」

場所: 兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

(3) 部会・調査研究会行事 22回

1) 1月29日(月)～30日(火), 「第19回自律分散システム・シンポジウム」

場所: 東京工業大学大岡山キャンパス 参加者: 150名, 発表件数: 69件

2) 3月15日(木)～16日(金), 「第34回知能システムシンポジウム」

場所: 同志社大学京田辺キャンパス 参加者: 119名, 発表件数: 65件

3) 3月20日(火), 「第41回システム工学部会研究会」

場所: 早稲田大学大久保キャンパス 参加者: 35名

4) 3月20日(火), 「第1回サブタスク研究会」

場所: 筑波大学大塚キャンパス 参加者: 10名

5) 6月28日(木)～29日(金), 「第41回離散事象システム研究会」

場所: 那覇簡易保険センター 参加者: 33名

6) 7月21日(土), 「第1回イノベティブコンピューティングに関する調査研究会講演会」

場所: 兵庫県立大学神戸キャンパス 参加者: 28名, 発表件数: 3件

7) 8月17日(金)～19日(土), 「第13回創発システムシンポジウム」

場所: インテック・大山研修センター 参加者: 76名, 発表件数: 28件

8) 12月8日(土), 「ニューラルネットワークフォーラム」

場所: 福井大学文京キャンパス 参加者: 28名

などを開催

(4) 部門運営に関する委員会など

1) 部門運営委員会 4回

(5) 部門賞

1) 奨励賞: 上田隆一氏(東京大学), 岡本 卓氏(千葉大学), 山下和彦氏(東京医療保健大学)

3. 4 SI 部門

当部門は、主に、システムインテグレーションの観点から理論と技術分野の研究者、技術者、学生を主な対象として、SICEの会員にとって魅力ある活動を展開することを目標に、以下の事業を展開した。

1) 研究活動の場と情報の提供

年度末の12月には、広島にて、事前登録参加者数800名を越える規模で部門大会を開催する。昨年に引き続き投稿数、参加者ともに増加の傾向であり、本部門大会のOS方式は定着している傾向にある。このことは、システムインテグレーション分野の重要性に対する認識とSI部門へ期待の高まりを示す結果であるとともに、更なる発展のためには方式の改良も示唆する。また

併催行事としてシステムインテグレーションフォーラム(一般公開行事)も計画されている。
また、3月にはRSJ、JSME/RMDとの共催でロボティクスシンポジアを開催した。

2) 部門および部会・調査研究会の活性化への取組み

部門に所属する19部会と2調査研究会はそれぞれ独自性を持ちつつ、1年を通じて関連な活動を展開した。一例を挙げるとロボティクス部会はSICE SIセミナーシリーズ「ロボティクス—ロボット制御の理論と実際—」を開催し、システムインテグレーションの視点からのロボット制御について、広く会員に情報を提供するとともに議論を深めた。

3) 部門運営に関するトピックス

部門運営を円滑に進めるため、運営委員会への参加のための旅費支給を拡大した。

主な事業内容は次の通り。

(1) SI2007 講演会(学術講演会)

- 1) 12月20日(木)～22日(土), 場所: 広島国際大学国際交流センター 講演数: 613件 参加者: 915名

特別講演Ⅰ「21世紀の国富論」講師 デフタ・パートナーズ・グループ会長 原 丈人氏

特別講演Ⅱ「科学技術と平和」講師 広島市長 秋葉忠利氏

(2) 部門共催・協賛行事 9回(共催4回・協賛5回)

- 1) 5月3日(木)～5日(土), 「ロボカップ ジャパンオープン 2007 大阪」

* ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会賞

* ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会賞

- 2) 7月1日(日)～10日(火), 「RoboCup 2007」

* RoboCupRescue Robot League SICE International Award

* RoboCupRescue Simulation League SICE International Award

- 3) 8月11日(土)～12日(日), 「第7回レスキューロボットコンテスト」競技会本選

* レスキューロボットコンテスト計測自動制御学会賞

- 4) 12月20日(木)～22日(土) RTミドルウェアコンテスト SICE賞(副賞賞金) 10万円

- 5) 7月21日(土) 第7回福祉・ユニバーサルデザインコンテスト(協賛)

- 6) 11月16日(金)～18日(日) マイクロマウス 2007(協賛)

- 7) 11月23日(金)～27日(火) テクスタイル展(協賛)

- 8) 12月9日(日) レスコンシンポジウム 2007(協賛)

- 9) 12月22日(土) 次世代ロボット共通プラットフォーム技術(協賛)

(3) 部会・調査研究会行事 のべ101回(把握分)

- 1) 各部会の運営委員会・部会の見学会 36回

- 2) 各部会主催の見学会・講演会・シンポジウム・展示会 13回

- 3) 競技会など 国内競技会4回, 国際競技会1回

- 4) オーガナイズドセッション 国内学会 14回, 国際学会9回

- 5) SICE2007 ワークショップ「ライフサイエンスを考える」3部会参加

- 6) SICE2007 部門連携ポスターセッション 全21部会・調査研究会参加

(4) 計測自動制御学会論文集

- 1) SI2005 特集号(2007年3月号)「医療福祉システムとシステムインテグレーション」特集号

- 2) SI2006 特集号(2007年11月号)「人と関わるシステムインテグレーション」特集号

(5) 部門運営に関する委員会など

- 1) 部門運営委員会 7回(うち1回はメール審議)

(6) 部門賞

- 1) 学術業績賞(候補なし)

- 2) 技術業績賞(1件)

RTミドルウェア開発および標準化推進チーム

- 3) 功績賞(候補なし)

- 4) 研究奨励賞(2件)

牧野泰才氏, 篠田裕之氏: 筋電分布計測によるハプティックインターフェース

井上貴浩氏, 平井慎一氏: 柔軟指による物体操作のダイナミクス

- 5) 若手奨励賞(5件)

呉 勝龍氏, 下坂正倫氏, 岡本正吾氏, 中後大輔氏, 高木 健氏

3. 5 産業応用部門

産業応用部門では、「実践が理論を越える、技術を生み、技術を役立て、技術を評価する産業応用部門」をキャッチフレーズに、産業システム部会、計装技術交流部会、流体計測制御部会、計測・制御ネットワーク部会の4部会と計測制御エンジニア会を中心として、シンポジウム・講習会等の開催、部門表彰、産業論文集の推進、各大会への協力等を実施し、学会および産業界での活動を行っている。

2007年度は、計装交流部会が2回の「今さら聞けない」シリーズと2回の「よく見る会」を開催し、会員サービスに貢献した。10月のSICE 2007 in Takamatsuでは、全部会がポスターセッションに参加し、SICEと産業応用部門のPRを実施した。11月の部門大会では、計測部門、日本電気計測器工業会とともにシンポジウムを開催した。計測制御エンジニア会では、計測制御エンジニアの認定活動を行っているが、11月に総会を開催し計測制御エンジニアの交流を図った。2007年12月末で227名が計測制御エンジニア・計測制御エンジニア補として認定されている。

そのほか、部門運営委員会、各部会運営委員会が各4～5回開催され、行事に進行を計画・管理した。

3. 6 先端融合部門

先端融合部門は2006年度には、人工生命体システム部会、バイオミメティック調査研究会、医療福祉調査研究会、大規模システム安全保全・安全環境構築調査研究会、バイオインフォメーションエクステンジ(BIX)調査研究会、スマートビークルシステム調査研究会の6つの部会、あるいは、調査研究会で構成されていたが、2007年度には、人工生命体システム部会、バイオミメティック調査研究会はSI部門へ、医療福祉調査研究会は廃止となり、大規模システム安全保全・安全環境構築調査研究会、バイオインフォメーションエクステンジ(BIX)調査研究会、スマートビークルシステム調査研究会の3つの調査研究会で構成された。

先端融合部門としては、部門運営委員会をSICE 2007 in Takamatsuにおいて、2007年9月20日に開催し、3つの調査研究会から活動状況を報告し、今後の活動計画を検討した。

以下、3つの調査研究会ごとの報告を行う。

(1) バイオインフォメーションエクステンジ(BIX)調査研究会

2007年度の活動、および、今後の予定は別紙、「バイオインフォメーションエクステンジ(BIX)調査研究会活動報告〔第2年度〕」の通りであるが、概略、

- 1) 2件の講演会開催
 - 2) 4件の外部研究会、シンポジウム等に参加、
 - 3) SICE 2007 in Takamatsuの2件の行事に参加、同OS “Frontline of BIX (BioInformation eXchange) Research”を企画(講演件数4件)
 - 4) 研究委員会開催、および、部門運営委員会出席
- 来年度は、調査研究会を継続し、今年度の活動内容を継続発展させる。

(2) スマートビークルシステム調査研究会

2007年度の活動は、

- 1) SICE 2007 in Takamatsuにおいて、OS “Sensing, Control and Safety Systems for Smart Vehicle Automation”(2セッション、講演件数9件)を企画した。
- 2) 特別講演1件、一般講演23件の講演会を2007年12月14日(金)～15日(土)に開催、同時に調査研究会会議を開催。

来年度は、調査研究会を継続し、今年度の活動内容を継続発展させる。

(3) 大規模システム安全保全・安全環境構築調査研究会

- 1) 2007年1月安全ワークショップを開催した。
 - 2) SICE 2007 in Takamatsuにおいて、OS “Advanced Systems for Safety of Industry”(講演件数6件)を企画した。
 - 3) 計測自動制御学会中国支部岡山地区計測制御研究会と共催で、5回の講演会を開催した。
- 来年度は、本調査研究会は2年目であり、今年度の活動内容を継続発展させる。

4. 支部協議会

支部協議会発足3年目として、下記の活動を行った。

1) 支部協議会共催チュートリアル講演会の実施

支部主催、支部協議会共催として本年度より実施した。講演会、見学会などを北海道支部、東

北支部、中部支部、関西支部、北陸支部、中国支部、四国支部、九州支部において10件実施した。

2) 支部間の情報横通しの推進

支部協議会を通じ、各支部での活動内容の紹介、それについてのディスカッションを活発に行った。今後の各支部間の講演会と特別講演会の連合開催などの活動の参考になる。

3) SICE Annual Conference と国際化について

Annual Conference 開催地は地方、首都圏と海外に分類でき、支部協議会と国際委員会(Steering Committee)との協議を通じて策定される。支部主催の国際シンポジウムへの支部基金の活用について各支部へ検討を依頼した。

4. 1 北海道支部

北海道支部地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員等にとって魅力ある活動を目標に、以下の事業を展開した。

(1) 研究活動の場と情報の提供

北海道支部学術講演会、特別講演会、通常の講演会を実施し、ロボットトライアスロンに共催した。また、総会や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。

(2) 支部運営および事業企画・検討

総会、幹事会、評議員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討などを行った。

主な事業内容は次の通り。

1) 第 39 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会

2007 年 1 月 18 日(木)～19 日(金)

場所：北海道大学学術交流会館

協賛：情報処理学会北海道支部、精密工学会北海道支部、電気学会北海道支部、日本機械学会北海道支部、日本知能情報ファジィ学会北海道支部(順不同)

一般講演：計測・制御・システム・情報に係る学術講演 54 件、参加者総数：101 名

2) 特別講演会 1 回

i) 1 月 18 日(木) 16:00～17:00

「学習によるメカトロニクス系の最適制御」

講師：名古屋大学大学院工学研究科 助教授 藤本健治氏

会場：北海道大学学術交流会館小講堂

参加者：約 40 名

3) 講演会 2 回

i) 3 月 4 日(日) 13:00～

「道産衛星 HIT-SAT について」

講師：北海道工業大学工学部 助教授 三橋龍一氏

会場：北海道工業大学 G205 教室

主催：北海道エージェントスケジュールプロジェクト

ii) 12 月 10 日(月) 17:00～18:30

「バーチャルトレーニングと OJT 融合によるものづくり基盤技術の獲得と人材育成」

講師：埼玉大学工学部機械工学科 教授 綿貫啓一氏

場所：室蘭工業大学 C303

主催：室蘭工業大学ものづくり基盤センター

参加者：約 35 名

4) ロボットトライアスロン(共催) 2 回

i) 9 月 30 日(日)

場所：北海道工業大学図書館、参加者：31 チーム、70 名

ii) 10 月 21 日(日)

場所：室蘭工業大学大学会館、参加者：34 チーム、93 名

5) 支部協議会チュートリアル講演

i) 11 月 6 日(火) 13:00～14:30

「身体性に基づく行動・認知の創発」

講師：東京大学 國吉康夫氏

場所：北海道大学情報科学研究科 11 階大会議室

参加者：22 名

- 6) 支部総会 1月18日(木)
- 7) 支部幹事会 3回
- 8) 支部評議員会 2回

4. 2 東北支部

(1) 研究集会の開催

東北支部創設以来続いている口頭発表形式の研究集会であり、2007年は、東北大学(第234回、特別講演会)、岩手大学(第235回)、八戸工業大学(第236回)、秋田大学(第237回)、山形大学(第238回)、日本大学(第239回)、東北学院大学(第240回)において計7回実施した。本研究集会は合わせて95件の発表があり、地域内の研究交流、学会の広報、運営専門委員会委員および若手会員の勧誘などの役割を果たした。また、30歳以下の発表者の中で特に優秀な発表を行った者に対して支部優秀発表奨励賞を授与し、2007年は9名が受賞した。このうち、第238回研究集会までに受賞した者の中で、本部の研究奨励賞受賞経験のない6名は、研究奨励賞候補者として支部推薦した。

(2) 講演会他各種行事の開催

2007年は、5件の講演会・セミナーを共催した。また、2005年より開催している見学会は、2007年はチュートリアル講演会の補助を受けて、9月3日に東京エレクトロンAT(株)宮城事業所の見学を行った(参加者21名、うち学生13名)。

(3) 役員会の開催

支部運営の主体である運営専門委員会を7回、役員・評議員・運営専門委員合同委員会を1回、支部総会を1回開催した。

(4) 会員勧誘の強化

学会の広報活動を行うとともに、会員の勧誘を行ってきた。特に、研究集会における優秀発表奨励賞受賞者の研究奨励賞への推薦、見学会参加学生への入会案内配布を通して、入会活動を積極的に進めた。

(5) 研究集会講演会等の開催回数

- | | |
|-----------------------|----|
| 1) 研究集会 | 7回 |
| 2) 講演会(共催) | 6回 |
| 3) 見学会(チュートリアル講演会) | 1回 |
| 4) 総会 | 1回 |
| 5) 運営専門委員合同委員会 | 7回 |
| 6) 役員・評議員・運営専門委員合同委員会 | 1回 |

(6) 東北支部優秀発表奨励賞受賞者(9名 第235回～240回研究集会)

梅川英之氏(岩手大学)、田名部義峰氏(八戸工業大学)、佐藤雄大氏(秋田大学)、若生大輔氏(東北大学)、渡部公樹氏(山形大学)、井上順博氏(弘前大学)、大場裕哉氏(日本大学)、福瀧僚浩氏(日本大学)、福田彬人氏(山形大学)

4. 3 中部支部

中部支部管内のSICE会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員等にとって魅力ある活動为目标に、以下の事業を展開した。

(1) 研究活動の場と情報の提供

支部賞表彰、特別講演会、学術講演会、見学会、講習会、シンポジウム、チュートリアル、研究会、などを実施もしくは実施予定である。また、総会、メーリングリスト、Webページを通して支部における活動の情報提供を行った。

(2) 会員増加への取組み

学術講演会と同時に、支部管内の研究室によるポスター発表とオープンラボを企画した。発表を通して学生間および一般・会員との交流を深めることを目的とし、学生に気楽に参加してもらうことで、SICEの魅力が学生に伝える場を提供している。

(3) 支部運営および事業企画・検討

総会、評議員会、役員会、委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討などを行った。主な事業内容は次の通り。

1) 特別講演会 1回

1月13日(土)「組み込みシステム技術の現状と今後」(2007年度支部総会と併設)

場所：名古屋工業大学 講師：名古屋大学 高田広章氏 参加者：44名

2) 学術講演会 1回

12月13日(木)「超短パルスファイバレーザを用いた高精度・高感度3次元光計測システムの開発」他 場所：名古屋大学 講師：大阪大学 西澤典彦氏他 参加者：20名

3) 見学会 1回

9月7日(金)「ポスターセッション」「岐阜大学研究室ツアー」

場所：岐阜大学第2食堂 参加者：52名

4) 講習会 2回

11月14日(水)「ヘリコプタにおける制御則設計でのシミュレータの活用」および見学会

場所：三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所 講師：三菱重工業(株) 小島 徹氏

参加者： 名

【他1回】

5) 講演会 1回

12月5日(水)「一般研究講演会」 場所：三重大学 参加者：80名

6) シンポジウム 1回

11月2日(金)「中部支部シンポジウム」 場所：上田東急イン 参加者：125名

7) チュートリアル 1回

10月18日(木)「中部支部チュートリアル講演会：計測制御の産業界への応用」

場所：名古屋工業大学 参加者：57名

8) 研究会 17件

3月31日(土)「STRANGE BEHAVIOURS IN POWER ELECTRONICS DUE TO NONLINEARITIES」場所：名古屋工業大学 講師：Budapest Univ. of Tech. & Eco., Prof. I. Nagy

参加者：34名

【他16件】

9) 支部総会 1月13日(土)

10) 支部幹事会 4回

11) 特別幹事会 5回(事業委員会4回, 拡大事業委員会1回)

12) 協賛事業 18件

13) 支部賞

研究賞：原 進氏(豊田工業大学)

技術賞：伊藤 博氏, 室崎 隆氏, 永田 功氏, 横山宏昭氏, 大島道博氏(デンソー)

奨励賞：残間忠直氏(三重大学), 廣瀬徳晃氏(名古屋工業大学), 中島 明氏(名古屋大学)

4. 4 北陸支部

北陸地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者, 技術者, 学生を主な対象として, 地域の会員等にとって魅力ある活動为目标に, 以下の事業を展開した。

(1) 研究活動の場と情報の提供

特別講演会, 研究会, 講義会, 学術講演会, 講演会(地区主催), 見学会などを実施もしくは実施予定。また, 総会や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。

(2) 会員増加への取組み

学術講演会と同時に学生発表交流会を企画した。発表を通して学生間および一般・会員との交流を深めることを目的とし, 学生に気楽に参加してもらうことで, SICE の魅力を学生に伝える場を提供している。

(3) 支部運営および事業企画・検討

総会, 評議員会, 役員会, 委員会を開催し, 支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに, これまでの活動内容の検討などを行った。

主な事業内容は次の通り。

1) 特別講演会 2回

i) 1月16日(火) 「バイオメトリクス(生体認証)を用いたセキュリティ技術」

場所：金沢全日空ホテル 講師：富山県立大学 中村清実氏 参加者：15名

ii) 11月23日(金) 「将来の原子力エネルギーシステム」

場所：福井大学 講師：Dr. Jacques BOUCHARD 氏 フランス原子力庁 長官付顧問

2) 講演会 9回

i) 6月14日(木) 「ユビキタスネットワークの概要と将来展望」

場所：福井工業大学 2号館 601号室 講師：福井工業大学 鹿間敏弘氏

ii) 7月26日(木) 「Communication-Induced Challenges in Networked Dynamical Systems」

場所：金沢大学 自然科学研究科 2号館 講師：Dr. Sandra Hirche

iii) 9月5日(水) 「環境に配慮した自動車静脈産業の生産設備管理」

場所：会宝産業(株) 代表取締役社長 近藤典彦氏

iv) 10月29日(月) 「MEMSによるナノ粒子のマニピュレーションとアクチュエーション」

場所：金沢大学 自然科学研究科 2号館 講師：引原隆士氏

v) 11月9日(金) 「リハビリテーションへの工学応用」

場所：富山県立大学 講師：小柳健一氏(富山県立大学), 黒田 篤氏((株)ジースポート)

vi) 12月7日(金) 「植物を計る」

場所：金沢星稜大学 講演者：長谷川有貴氏(埼玉大学), 田村祐輔氏(富山大学), 神保達也氏(金沢大学), 藤井正基氏(金沢星稜大学)

3) 見学会 1回

9月5日(水) 題目「環境に配慮した自動車静脈産業の生産設備管理」

場所：会宝産業(株) 参加者：30名

4) シンポジウム 1回

9月8日(土), 9日(日) 2007年度電気関係学会北陸支部連合大会

場所：福井工業大学 2号館及びF.U.Tタワー

ー特別講演：「ILQ制御の理論と応用」福井工業大学 藤井隆雄氏

ー一般発表件数：20件

5) 支部総会 1月16日(火)

6) 支部幹事会 4回

7) 北陸支部賞

優秀論文発表賞：瀬戸洋紀氏(金沢大学)

4. 5 関西支部

関西支部における2007年度の事業活動は、講習会、見学会、シンポジウムを開催するとともに、学生連絡研究会、安全・安心の科学研究会を継続している。シンポジウムは、対象を企業の若手研究者にも拡げるべく若手研究発表会という形で開催する。これらの事業を通して、さらなる産学官の連携および事業の拡大を図る。

事業内容の詳細は次の通り。

(1) 特別講演会 1回 1月26日(金)

「Usability, Communicability, Enjoyabilityの向上をめざす

次世代ヒューマンインタフェース技術の展望」 西田正吾氏(大阪大学)

「企業におけるR&D戦略のあり方と先端技術」 久間和生氏(三菱電機)

(2) 講習会 1回 6月22日(金)

【テーマ】 「人間行動のモデリングと解析—計測・制御技術からのアプローチ—」

於 千里ライフサイエンスセンター

申込：一般(会員)25名, 学生13名, テキスト2件(6月21日現在)

(3) 見学会 1回 10月12日(金), 13日(土)

【テーマ】 「航空機と原発—極限技術を体感しよう!」

10月12日(金) 川崎重工業(株)岐阜工場

10月13日(土) 独立行政法人日本原子力研究開発機構

高速増殖炉研究開発センター

参加者数：35人(うち1名は12日のみの参加)+見学会委員(5名)

(4) シンポジウム 1回 1月17日(水)

・SICE 関西支部 若手研究発表会

於 大阪大学中之島センター, 講演件数 31件

特別講演 岸 真友氏(住友金属工業)

大学での研究と企業での仕事

ー企業技術者に求められる知識・スキル・経験ー

(5) チュートリアル講演会 1回 11月2日(金)

「モデリングとシステム同定」

於 神戸大学工学部, 参加者数: 61 名

- (6) 研究会 2 件
- (7) 支部総会 1 回 1 月 26 日(金)
- (8) 支部幹事会 6 回
- (9) 特別幹事会 1 回 12 月 12 日(水)

4. 6 中国支部

中国地方の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者, 技術者, 学生を対象として, 以下の事業を展開した。なお, 支部学術講演会は, 論文投稿料を無料とし, さらに, 学生については参加費も無料とすることで, 学生および企業からの参加の促進をはかった。

(1) 特別講演会:

日時: 2007 年 1 月 19 日(金)

場所: 岡山大学創立 50 周年記念館多目的ホール

演題: 「非線形・不確かなシステムの制御と推定およびその応用」講師: 井上 昭氏(岡山大学教授)

(2) 第 16 回計測自動制御学会中国支部学術講演会:

日時: 2007 年 11 月 10 日(土) 9:30~19:30(懇親会含む),

場所: 山口大学工学部 (常盤キャンパス)

特別講演: 「分野横断する適応制御の世界」佐野 昭氏(慶応義塾大学教授)

チュートリアル講演: 「安全・安心のための先端センシング技術」田中正吾氏(山口大学教授)

一般講演: 137 名, 参加者: 283 名

(3) 講演会(15 回):

月日, 場所, 主催学会, 題目

- 1) 2 月 21 日(水), 岡山, 情報処理学会, セキュア OS の動向
- 2) 2 月 27 日(火), 岡山, 情報処理学会, 鹿児島県の離島における ICT 利活用
- 3) 3 月 14 日(水), 山口, 電気学会, 電気と安全
- 4) 3 月 15 日(木), 広島, 情報処理学会, 最新の LSI 設計検証手法における組合せアルゴリズム
- 5) 3 月 27 日(火), 山口, 電気学会, メカトロニクス技術応用機器の開発について
- 6) 4 月 25 日(火), 広島, 情報処理学会, Heuristics for Stochastic and Dynamic VRP's
- 7) 6 月 4 日(月), 岡山, 計測自動制御学会, Distribution Control and its Application
- 8) 6 月 27 日(水), 岡山, 計測自動制御学会, Intelligent Transportation Systems in Taiwan
- 9) 6 月 29 日(金), 広島, 計測自動制御学会, 絵画の印象理解の機械論
- 10) 11 月 2 日(金), 山口, 電気学会, 歴史から学ぶ科学する心—電気をつくった人々の創造力と感性—
- 11) 11 月 14 日(水), 岡山, 情報処理学会, 並列処理プロセッサのアーキテクチャ
- 12) 12 月 4 日(火), 岡山, 電子情報通信学会, ITU における標準化のあり方と議論
- 13) 12 月 20 日(木), 広島, 計測自動制御学会, 高安全性移動ロボットのための内外界センシング技術
- 14) 12 月 21 日(金), 広島, 計測自動制御学会, 勾配法を用いた適応 IIR ノッチフィルタの追跡特性について
- 15) 12 月 25 日(火), 岡山, 計測自動制御学会, Nonlinear rational model identification and control

(4) 2007 年度計測自動制御学会中国支部チュートリアル講演会:

日時: 2007 年 10 月 31 日(水) 13:00~16:10,

場所: 島根大学総合理工学部 3 号館 4 階 401 講義室

演題: 状態制限条件を考慮した劣駆動系の制御技術—構造系, Pendubot 系を例として—

講師: 吉田和信氏(島根大学), 松本 至氏(米子工業高等専門学校)

(5) グループ研究会(10 件):

県名, 研究会名称, 代表者

- 1) 広島, 東広島デジタル信号処理研究会, 雛元孝夫氏(広島大学大学院工学研究科)
- 2) 岡山, 津山地区計測自動制御研究会, 井上浩行氏(津山工業高等専門学校)
- 3) 広島, プロセス制御研究会, 山本 透氏(広島大学大学院教育研究科)
- 4) 岡山, 人間・情報・システム研究会, 村田厚生氏(岡山大学大学院自然科学研究科)

- 5) 岡山, 岡山地区計測制御研究会, 井上 昭氏(岡山大学大学院自然科学研究科)
- 6) 島根, 松江地区計測自動制御研究会, 船曳繁之氏(島根大学総合理工学部)
- 7) 岡山, インテリジェント制御研究会, 兼田雅弘氏(岡山県立大学情報工学部)
- 8) 広島, 瀬野川地区グループ研究会, 宗像経博氏(広島国際学院大学工学部)
- 9) 山口, 医療福祉用計測制御技術研究会, 田中幹也氏(山口大学工学部)
- 10) 広島, AV 環境における計測制御研究会, 生田 顕氏(県立広島大学)
- (6) 支部総会: 2007 年 1 月 19 日(金) 岡山市
- (7) 支部役員会: 3 回
- (8) 拡大幹事会: 1 回
- (9) 中国支部賞:
奨励賞: 濱元 育氏(岡山理科大学), 柴山恵司氏(岡山理科大学), 田中 豪氏(山口大学)
吉田 悠氏(島根大学), 高田大輔氏(広島大学), 橋本 望氏(大阪大学)

4. 7 四国支部

四国支部の学会活動を活発化させるため, 若年者また会員勧誘対象者を意識した講演会, セミナー, 工作教室および見学会を企画・実施した. 特に, 電子・情報・制御分野のチュートリアルセミナーを 3 件開催し, 地方の中小製造企業者に対し, 関連技術の最新の話題を提供した. また, SICE Annual Conference 2007 開催の機会(香川大学)を活用し, SICE Week 2007 を実施した. 具体的には, 夏休みこども工作教室や世界的な研究者による外国語の高校生向けセミナー授業を開催し, これからの若者に対し, もの作りや先端技術研究への啓蒙を行った. また, 支部内の関連する研究活動を活性化するために, 各大学で行われていた研究会との共催事業にも積極的に取組んだ. 今年度も若年会員を対象とした四国支部奨励賞の募集を継続した.

以下に今年度の実施事業を報告する.

- (1) 総会 1 回
日時: 2007 年 1 月 13 日(土) 11:30~13:00
場所: 徳島大学工学部(徳島市)
- (2) 役員会 2 回
日時: 2007 年 1 月 13 日(土) 13:00~15:00
場所: 徳島大学工学部(徳島市)
日時: 2007 年 12 月 27 日(土) 13:00~15:30
場所: 徳島文理大学工学部(さぬき市)
- (3) 講演会 8 回
 - 1) 日時: 2007 年 6 月 6 日(水) 10:00~11:30
場所: 〒770-8503 徳島市蔵本町 3-18-15 徳島大学医学部青藍講堂
演題: "Technological competency as caring in practical nursing"
「看護実践能力におけるケアリングとしての技術的能力」
講師: Dr. Rozzano C. Locsin, Professor, Florida Atlantic University, Christine E. Lynn College of Nursing
フロリダアトランティック大学看護学部教授 看護学博士 ロッツァーノ・C・ロクシン氏
主催: 電子情報信学会四国支部
共催: 電気学会四国支部, 計測自動制御学会四国支部
 - 2) 日時: 2007 年 8 月 10 日(金) 13:30~15:00
場所: 〒770-8503 徳島市蔵本町 3-18-15 徳島大学蔵本構内 青藍会館 1 階大集会室
演題: "Sound therapy of tinnitus and its neural network model"
「耳鳴りの音治療とその神経回路モデル」
講師: Dr. Ali A. Danesh, Associate Professor, and Director of Audiology Clinic, College of Education, Florida Atlantic University
フロリダアトランティック大学教育学部准教授・聴覚診療施設長 博士(聴覚学) アリ・A・ダネッシュ氏
主催: 電子情報信学会四国支部
共催: 電気学会四国支部, 計測自動制御学会四国支部
 - 3) 日時: 2007 年 10 月 19 日(金) 10:00~11:00
場所: 〒761-0396 高松市林町 2217-20 香川大学工学部 1 号館 1208 会議室

- 演題：Alzheimer's Disease and Complex Medical Engineering
 講師：Sun Health Research Institute, USA, Prof. Yong Shen
 主催：計測自動制御学会四国支部
- 4) 日時：2007 年 11 月 9 日(金) 15:10~16:30
 場所：〒769-2193 さぬき市志度 1314-1 徳島文理大学工学部
 内容：チュートリアルセミナー 画像処理の基礎と最近の話題
 演題：画像処理による視点内挿の試み - 視点移動のための線形変換処理 -
 講師：東京工業大学大学院総合理工学研究科助教 久保田 彰氏
 主催：計測自動制御学会四国支部 計測自動制御学会支部協議会
- 5) 日時：2007 年 11 月 22 日(木) 13:30~15:00
 場所：〒769-2193 さぬき市志度 1314-1 徳島文理大学工学部
 内容：チュートリアルセミナー 画像処理の基礎と最近の話題
 演題：液晶技術と薄型テレビについて
 講師：シャープ(株)AV システム事業本部 副参事 奥村憲三氏
 共催：計測自動制御学会四国支部 計測自動制御学会支部協議会
- 6) 日時：2007 年 11 月 28 日(水) 13:30~16:30
 場所：〒769-2193 さぬき市志度 1314-1 徳島文理大学工学部
 内容：チュートリアルセミナー
 演題：適応信号処理の基礎と最近の話題
 講師：京都大学大学院情報学研究科教授 酒井英昭氏
 共催：計測自動制御学会四国支部 計測自動制御学会支部協議会
- 7) 日時：2007 年 12 月 14 日(金) 14:35~16:05
 場所：〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1 徳島大学工学部
 演題：ダイナミクスにおける計測・同定問題あれこれ
 講師：広島大学大学院工学研究科教授 中川紀壽氏
 主催：計測自動制御学会四国支部
- 8) 日時：2007 年 12 月 14 日(金) 13:10~15:00
 場所：〒769-2193 さぬき市志度 1314-1 徳島文理大学工学部
 演題：車輛の無停止重量計測について
 講師：鎌長製衡(株) 笠松博史氏
 主催：計測自動制御学会四国支部
- (4) 研究会 2 件
- 1) 香川大学非線形システム研究会
 主催：香川大学工学部情報工学科(代表：堀川 洋氏)
 - 2) 折り紙の数理と科学に関する研究会
 主催：徳島文理大学工学部(代表：樋口 彰氏)
- (5) 共催事業 5 件
- 1) SICE Week 2007 SICE 夏休みこども工作教室開催
 日時：2007 年 8 月 20 日(月) 10:00~12:00 と 14:00~16:00 の 2 回
 会場：徳島文理大学香川キャンパス(さぬき市志度), 香川大学幸町キャンパス(高松市幸町)の 2 会場
 - 2) SICE Annual Conference 2007
 日時：2007 年 9 月 17 日(月)~20 日(木)
 会場：香川大学幸町キャンパス(高松市)
 - 3) SICE Week 2007 SICE 高校生向けセミナー
 日時：2007 年 9 月 18 日(火) 15:30~17:00
 会場：高松市立高松第一高等学校(高松市)
 講師：Alain Poncet 氏(欧州共同原子核研究機構, スイス)
 演題：Basics of superconducting and 1.9 K cryogenics
 - 4) SICE Week 2007 SICE 高校生向けセミナー
 日時：2007 年 9 月 19 日(水) 15:50~17:00
 会場：香川県立高松高等学校(高松市)
 講師：Günther Schmidt 氏(ミュンヘン工科大学名誉教授, ドイツ)
 演題：Robots for the Benefit of Humans

5) 2007 年度電気関係学会四国支部連合大会

日時：2007 年 9 月 29 日(土) 一般講演，特別講演，懇親会

会場：徳島大学工学部 常三島キャンパス(徳島市南常三島町 2-1)

備考：今年度は当支部が広告募集の幹事を担当した。

(6) 見学会

日時：2007 年 12 月 13 日(木) 9:00~16:50

場所：三井造船(株)玉野事業所(玉野市玉)

三井造船システム技研(株)(玉野市玉原)

(7) その他

四国支部奨励賞：本年度は該当者なし

4. 8 九州支部

九州・沖縄地区の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者，技術者，学生を主な対象として，地域の会員等にとって魅力ある活動を目指し，以下の事業を展開した。

(1) 研究活動の場と情報の提供

特別講演会，研究会，SICE 九州フォーラム，講義会，学術講演会，講演会などを実施した。また，総会や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。

(2) 会員増加への取り組み

SICE 九州フォーラムにて会員申込案内を会員外参加者に配布し，入会促進を図った。また，学術講演会と同時に学生発表交流会を企画した。発表を通して学生間および一般・会員との交流を深めることを目的とし，学生に気楽に参加してもらうことで，SICE の魅力を学生に伝える場を提供している。

(3) 支部運営および事業企画・検討

総会，評議員会，役員会，委員会を開催し，支部の諸活動の立案・実施にあたり，これまでの活動内容の検討や改革，新企画の発案などを行った。

以下に今年度の実施事業を報告する。

1) 総会	1 回
2) 役員会	4 回
3) 評議員会	1 回
4) 事業委員会	2 回
5) SICE 九州フォーラム	1 回
6) 学術講演会	1 回
7) 学生発表交流会	1 回
8) 講義会	1 回
9) 特別講演会	1 回
10) 講演会	7 回
11) 見学会	1 回
12) 研究会	7 回

13) 支部奨励賞表彰：

計測部門	吉原 翼氏(九州工業大学)
制御理論部門	篠田賢導氏(九州大学)
制御応用部門	増田公一氏(佐賀大学)
システム応用部門	右立真輝氏(熊本大学)

Ⅱ 事 業

(1) 会誌「計測と制御」(Vol.46, No.1~No.12)を毎月発行

- 1月号 特集・楽しみながら学ぶ～生涯の学びに活きる計測・制御・システム
- 2月号 特集・社会システムを支えるセンサネットワーク技術
- 3月号 ミニ特集・制御の原理と先端科学技術
- 4月号 特集・システムを考える, システムで考える
- 5月号 特集・計装制御エンジニアへの期待「後輩へ伝えたい実務の勘どころ」
- 6月号 特集・ロボット聴覚のためのインテグレーション技術
- 7月号 特集・変種変量生産を支えるシステム技術
- 8月号 特集・建物の安全性のモニタリング技術
- 9月号 特集・制御の教え方を訪ねて
- 10月号 特集・脳の理解とその応用
- 11月号 ミニ特集・協調とフォーメーションの制御理論
- 12月号 特集・生物の社会適応機能の解明とその工学的応用

総頁数 968 頁

(2) 論文集「計測自動制御学会論文集」(Vol.43, No.1~12)を毎月発行

総頁数 1,176 頁

掲載論文 137 件, ショート・ペーパー 20 件, 開発・技術ノート 0 件, 討論 0 件

投稿論文数 199 件, ショート・ペーパー 19 件, 開発・技術ノート 1 件, 討論 0 件

購読数 1,879 部

(3) 産業論文

産業論文累計 62 編, ショート・ペーパー累計 1 件, 開発・技ノート累計 6 件を Web 上で公開

(4) 英語論文(Web 発行)

2008 年 1 月の英文論文集 SICE JCMSI の創刊にともない, 英語論文を発展的に解消することを決め, これまでの仕掛かり中のものを整理し, Vol.E No.6 まで発行しすべての作業を完了した。

(5) 講 演 会

1. 主 催

- (1) SICE-Annual Conference 2007 (07.9.17-20・高松)
(採択論文数 584 件(15 の国と地域から 670 件の投稿, 採択数のうち海外から 119 件), 一般セッション 61 セッション, オーガナイズドセッション 54 セッション, 参加者 902 名. うち海外からは 131 名)
- (2) SICE Week 2007「SICE 夏休みこども工作教室(香川大学幸町キャンパス)」
(07.8.20・高松・101 名)
- (3) SICE Week 2007「SICE 高校生向けセミナー(高松第一高等学校)」
(07.9.18・高松・110 名)
- (4) SICE Week 2007「SICE 高校生向けセミナー(高松高等学校)」 (07.9.19・高松・50 名)
- (5) 第 6 回チュートリアル講演会 (07.12.20・東京・25 名)

2. 共 催

- (1) 2007 年春季第 54 回応用物理学関係連合講演会 (07.3.27-30・相模原)
- (2) 原子力総合シンポジウム 2007 (07.5.30-31・東京)
- (3) 第 44 回アイソトープ・放射線研究発表会 (07.7.4-6・東京)
- (4) 第 37 回安全工学シンポジウム (07.7.5-6・東京)
- (5) 2007 年度工学教育連合講演会 (07.9.8・東京)
- (6) 第 50 回自動制御連合講演会 (07.11.24-25・横浜)

(6) 部門大会／部門学術講演会

- (1) 第 7 回制御部門大会 (07.3.6-8・東京・345 名)

- (2) 第24回センシングフォーラム (07.10.25-26・仙台・124名)
- (3) 産業応用部門2007年度大会 (07.10.25-26・東京・76名)
- (4) システム・情報部門学術講演会(SSI2007) (07.11.26-28・東京・167名)
- (5) 第7回システムインテグレーション部門講演会(SI2007) (07.12.20-22・広島・915名)
- (6) システムインテグレーションフォーラム(SI2007併設行事) (07.12.22・広島・195名)

(7) 支部関係／支部学術講演会

- (1) 北海道支部
学術講演会1回，特別講演会1回，講演会2回，共催・協賛行事2回，チュートリアル講演会1回
- (2) 東北支部
研究集会7回，共催・協賛行事6回，見学会1回
- (3) 中部支部
学術講演会1回，特別講演会1回，講演会1回，チュートリアル講演会1回，講習会2回研究会17回，見学会1回，シンポジウム1回，共催・協賛行事18回
- (4) 北陸支部
特別講演会2回，講演会9回，見学会1回，シンポジウム1回
- (5) 関西支部
特別講演会1回，見学会1回，研究会2回，講習会1回，シンポジウム1回
チュートリアル講演会1回
- (6) 中国支部
学術講演会1回，特別講演会1回，チュートリアル講演会1回，講演会15回，グループ研究会10回
- (7) 四国支部
講演会8回，見学会1回，研究会2回，共催行事5回
- (8) 九州支部
フォーラム1回，学術講演会1回，特別講演会1回，研究会7回，見学会1回
講演会7回，講義会1回，学生発表交流会1回

(8) 講習会

- (1) SICE セミナー「アドバンスド制御ー基礎・先端・応用」 (07.1.18-19・大阪・28名)
- (2) SICE セミナーシリーズ「ロボティクスーロボット制御の理論と実際ー」第2回 (07.1.23・東京・20名)
- (3) 第7回制御部門ワークショップ (07.3.5・東京・48名)
- (4) SensorExpo2007SICE 計測部門セミナー (07.4.5・東京・52名)
- (5) SICE セミナー「制御のためのシステム同定」 (07.4.23-24・東京・76名)
- (6) SICE セミナー「現代制御理論入門」 (07.9.13-14・東京・38名)
- (7) SICE チュートリアルセミナー「IEEE 制御部門論文賞受賞記念」 (07.9.18・香川・28名)
- (8) SICE セミナー「実践的な制御系設計」 (07.11.20-21・大阪・66名)
- (9) SICE セミナー「制御のためのシステム同定 in 中部」 (07.11.22・名古屋・56名)
- (10) SICE セミナー「実践的な制御理論」 (07.12.6-7・東京・40名)
- (11) SICE セミナーシリーズ「ロボティクスーロボット制御の理論と実際ー」第3回 (07.12.17・東京・16名)

(9) シンポジウム

- (1) 第19回自律分散システム・シンポジウム (07.1.29-30・東京・150名)
- (2) 第7回適応学習制御シンポジウム (07.1.29-30・東京・51名)
- (3) 第34回知能システムシンポジウム (07.3.15-16・東京・119名)
- (4) 第13回創発システムシンポジウム (07.8.17-19・富山・76名)
- (5) 第36回制御理論シンポジウム (07.9.5-7・札幌・177名)
- (6) 第24回誘導制御シンポジウム (07.10.25-26・長野・38名)
- (7) 計装技術交流部会・産業システム部会合同シンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (8) 第8回流体計測制御シンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (9) 計測・制御ネットワーク部会シンポジウム(産業応用部門大会と併設)

(10) 第33回リモートセンシングシンポジウム

(07.11.8-9・千葉・39名)

(11) 第12回パターン計測シンポジウム

(07.11.30-12.1・宝塚・21名)

(10) 部門活動

1. 計測部門 委3回 部門大会1回
 - (1) センシングフォーラム委員会 委2回
 - (2) 温度計測部会 委3回, 部会企画行事3回
 - (3) 力学量計測部会 委2回, 部会企画行事1回, 共催行事2回
 - (4) リモートセンシング部会 委2回, 部会企画行事3回
 - (5) パターン計測部会 部会企画行事3回
 - (6) センシングフォトリクス部会 委1回, 共催行事1回
 - (7) 先端電子計測部会 委1回, 部会企画行事2回
 - (8) ネットワークセンシングシステム部会 部会企画行事3回
2. 制御部門 委4回 部門大会1回 セミナー10回
 - (9) 制御技術部会 委3回, 部会企画行事4回
 - (10) 制御理論部会 部会企画行事1回
 - (11) 知的システム構築のための適応学習制御調査研究会 委1回 研究会企画行事3回
 - (12) 先端制御技術のビッグデータ応用調査研究会 研究会企画行事1回
 - (13) 多様な非線形ダイナミクスを生かした次世代制御調査研究会 研究会企画行事3回
 - (14) 生物制御調査研究会(～2007.8終了) 研究会企画行事1回
 - (15) 生物制御システム調査研究会(2007.9～) 研究会企画行事1回
 - (16) エンジン・パワートレイン先端制御理論調査研究会 委1回, 研究会企画行事5回
 - (17) フォーメーション制御調査研究会 委4回, 研究会企画行事3回
 - (18) 多分解能マルチスケールシステム調査研究会 研究会企画行事5回
3. システム・情報部門 委4回 部門大会1回
 - (19) システム工学部会 委2回, 部会企画行事1回
 - (20) マンマシンシステム部会 部会企画行事1回
 - (21) 知能工学部会 委1回, 部会企画行事1回, 協賛行事1回
 - (22) 生体・生理工学部会 委2回, 部会企画行事2回, 共催行事1回
 - (23) 自律分散システム部会 委4回, 部会企画行事4回
 - (24) ニューラルネットワーク部会 委3回, 部会企画行事2回
 - (25) 離散事象システム部会 委1回, 部会企画行事2回
 - (26) 身体・脳・環境の相互作用による適応的運動機能の発現に関する調査研究会 共催行事1回
 - (27) イノベティブコンピューティングに関する調査研究会 委2回, 研究会企画行事2回
4. システムインテグレーション部門 委7回, 部門大会1回, 部門企画行事1回, 共催行事2回
 - (28) メカトロニクスシステム部会 部会企画行事1回
 - (29) 自動化システム部会 委3回, 部会企画行事6回
 - (30) ロボティクス部会 委1回, 部会企画行事2回
 - (31) 福祉工学部会 委3回, 部会企画行事5回
 - (32) VR工学部会 委2回, 部会企画行事5回
 - (33) レスキュー工学部会 部会企画行事5回, 共催行事4回
 - (34) ユニバーサルデザイン部会 委2回, 部会企画行事4回, 協賛行事1回
 - (35) 相互作用と賢さ部会 委3回, 部会企画行事9回
 - (36) 共創システム部会 委4回, 部会企画行事5回
 - (37) ロボット・セラピー部会 部会企画行事18回, 協賛行事1回
 - (38) 安全回復システム部会 委6回, 部会企画行事1回
 - (39) バイオシステム部会 部会企画行事1回
 - (40) RTシステムインテグレーション部会 部会企画行事7回
 - (41) ソフトマテリアル応用部会 部会企画行事4回
 - (42) 医工融合システム部会 部会企画行事1回
 - (43) 人工生命体システム部会 部会企画行事1回
 - (44) 触覚部会 委3回, 部会企画行事6回, 共催行事1回
 - (45) バイオミメティックマシン部会 委1回, 部会企画行事6回

- (46) モーションメディア調査研究会 委 2 回, 研究会企画行事 5 回
- (47) 分散知識・行動知能調査研究会 委 4 回, 研究会企画行事 7 回
- (48) 社会における RT ロールモデル調査研究会 研究会企画行事 1 回
- 5. 産業応用部門 委 7 回, 部門大会 1 回
 - (49) 産業システム部会 委 5 回, 部会企画行事 1 回
 - (50) 計装技術交流部会 委 10 回, 部会企画行事 4 回
 - (51) 流体計測制御部会 委 1 回, 部会企画行事 2 回
 - (52) 計測・制御ネットワーク部会 委 5 回, 部会企画行事 3 回
 - (53) 計測制御エンジニア会 総会 1 回, 理事会 1 回, 幹事会 2 回
- 6. 先端融合部門 委 1 回
 - (54) スマートビークルシステム調査研究会 委 1 回, 研究会企画行事 3 回
 - (55) 大規模システム安全保全・安全環境構築調査研究会 研究会企画行事 7 回, 共催行事 5 回
 - (56) バイオインフォメーションエクステンジ(BIX)調査研究会 委 1 回, 研究会企画行事 2 回, 協賛行事 4 回

(11) 国際会議(共催)

- (1) 第 13 回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム (AROB) (07.1.25-27・別府)
- (2) 2007 IEEE International Symposium on Industrial Electronics (ISIE2007) (07.6.4-7・Vigo, Spain)
- (3) IMEKO/SICE/IEEE 3rd International Symposium on Measurement, Analysis and Modeling of Human Functions (ISHF2007) (2007.6.14-6.16・Cascais, Portugal)
- (4) Fifteenth International Conference on Composites/Nano Engineering (ICCE-15) (07.7.15-21・Hainan Island, China)
- (5) The 16th IEEE International Conference on Control Applications (CCA) and the 22nd IEEE International Symposium on Intelligent Control (ISIC) (07.10.1-3・Singapore)
- (6) 2007 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robotics and Systems (IROS2007) (07.10.29-11.2・San Diego, U.S.A.)
- (7) The 33rd Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IECON'07) (07.11.5-8・Tainpei, Taiwan)
- (8) 2007 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS2007 & Micro-Nano COE) (07.11.11-14・Nagoya)
- (9) 46th IEEE Conference on Decision and Control (CDC) (07.12.12-14・New Orleans, U.S.A.)

(12) 出版

計測・制御テクノロジーシリーズを刊行中。第 15 回配本『信号処理入門』初版発刊。
出版担当理事と事務局の adhoc 会議を開き、2008 年度 1 月に出版委員会を開いて今後の推進について検討する計画を立てた。

(13) ハンドブック等(会員頒布)

頒布状況

- | | |
|--|------------|
| (1) 自動制御ハンドブック(基礎編)(オーム社より販売) | 累計 4,125 部 |
| (2) 〃 (機器・応用編)(オーム社より販売) | 累計 4,060 部 |
| (3) 教育用ビデオ教材 初心者のための現代制御理論ビデオ講座 | 累計 665 セット |
| (4) SICE-BASE 30 | 累計 164 本 |
| (5) 学術用語集「計測工学編」(コロナ社より販売) | 累計 370 部 |

Ⅲ 学 会 賞 2007 年度計測自動制御学会賞(敬称略)

(1) 功 績 賞

(該当なし)

(2) 論 文 賞 10 編 28 名

論文賞・蓮沼賞 : 丹波 純, 佐藤公一, 山澤一彰, 岸本勇夫, 新井 優

論文賞 : 岡田徳次, 黒崎賢一
 論文賞・武田賞 : 小林孝一, 井村順一
 論文賞 : 甲斐健也, 木村英紀
 論文賞 : 新田益大, 杉本謙二
 論文賞 : 酒井史敏, 杉江俊治
 論文賞 : 柏木正隆, 大住 晃, 渡邊雅彦, 高津知司
 論文賞・友田賞 : 福田 修, 福元清剛
 論文賞 : 松野隆幸, 玉置大地, 新井史人, 福田敏男
 論文賞 : 米沢憲造, 花田雄一, 西村信孝

(3) 技術賞 5編 38名

技術賞 : 澤津橋徹哉, 塚原千幸人, 野崎昭宏, 馬場恵吾, 福永義徳
 技術賞 : 岩渕一徳, 生方正志, 渡部繁則, 正木和行, 羽田尚之, 高木康夫,
 近内 忠, 中原裕輔
 技術賞 : 茂森弘靖, 水島成人, 池田展也, 平田直人, 長尾 亮
 技術賞 : 荒井功恵, 山本昭男, 小山善貞, 中川敬三, 山脇敏彦, 城野 隆,
 高山佳久, 藤原勇一, 空野正明, 間瀬一郎, 池辺憲一, 佐藤尚樹,
 白玉公一, 小倉直人
 技術賞 : 福沢充孝, 大原健一, 大谷哲也, 安部裕人, 渡辺 恒, 吉川 隆

(4) 著述賞 2件 4名

: 背戸一登
 : Jan M. Maciejowski, 足立修一, 管野政明

(5) 新製品開発賞 1件

: 横河電機(株)

(6) 教育貢献賞
 (該当なし)

(7) 学術奨励賞

研究奨励賞 10名

: 山縣貴幸, 青井伸也, Tanagorn Jennawasin, 五十嵐裕司,
 神保智彦, 岩崎 靖, 釜道紀浩, 古賀敏幹, 戸舎稚詞, 中原和哉

技術奨励賞 4名

: Atsushi Gogami, 坂本直樹, 大西正輝, 藤井 淳

(8) SICE Annual Conference Award

International Award Takayuki Hoshi, Kang-Zhi Liu
 Young Author's Award Hiroaki Mizuhara

IV 名誉会員 2007年度名誉会員証贈呈 1名(敬称略)

: 木村英紀

V フェロー 2007年度フェロー称号贈呈 4名(敬称略)

: 尾花英夫, 早川義一, 出口光一郎, 橋本秀紀

VI SICE 認定計測制御エンジニア認定試験合格者

初級計測制御エンジニア 1名

: 浅野誠一郎

計測制御エンジニア補 4名

: 吉村正俊, 藤澤圭介, 林 浩幹, 佐藤浩明

計測制御エンジニア 6名

: 内藤 隆, 小澤秀二, 阿部信夫, 中垣一久, 高田哲也, 伊澤 仁

計測制御エンジニア（推薦認定） 15 名

：山下善之，馬場 泰，山本倫久，小島文夫，三好孝典，
伊藤光二郎，黒須 茂，恵木 守，前田親良，小杉光春，
小野敏郎，鈴木 剛，桑田龍一，高柳亮一，奥津良之

功績計測制御エンジニア 2 名

：江本紀彦，永島 晃

Ⅶ SICE プロセス整修了者 17 名

：池本 久，梅本聖己，小澤秀二，梶原 繁，梶原 肇，金子雄一，
国馬順一，笹 浩孝，土子賢一，富田孝雄，福沢充孝，松下昌和，
三嶋俊介，村田 尚，松葉匡彦，北條達也，藤澤圭介

Ⅷ 部門賞・支部賞

1. 計測部門

技術賞 ；石原卓也

奨励賞 ；岩本貴之，樋口裕也，伊藤健一，本田誠一

2. 制御部門

パイオニア賞 ；藤本健治

部門大会賞 ；東 俊一，望山 洋

3. システム・情報部門

優秀賞 ；該当なし

奨励賞 ；上田隆一，岡本 卓，山下和彦

4. システムインテグレーション部門

技術業績賞 ；RT ミドルウェア開発および標準化推進チーム

学術業績賞 ；該当なし

奨励賞 ；牧野泰才，篠田裕之，井上貴浩，平井慎一

若手奨励賞 ；呉 勝龍，下坂正倫，岡本正吾，中後大輔，高木 健

功績賞 ；該当なし

ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会賞

；CIT Pelican(千葉工業大学)

ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会国際賞

；Pelican United Team

(Chiba Institute of Technology, Tohoku University,

Okayama University, International Rescue System Institute)

レスキューロボットコンテスト計測自動制御学会賞(レスキュー工学大賞)

；TRRL(津山工業高等専門学校 電子制御工学科)

ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会賞

；NAITO-Rescue(名古屋工業大学，愛知工業大学)

(夏目恵介，伊藤暢浩，額額寛明)

ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会国際賞

；Ji jun Wang

計測自動制御学会 RT ミドルウェア賞

；佐々木 毅

5. 産業応用部門

技術賞 ；佐々木勝美(代表者)

(共同開発者：松原輝次，關 貴浩，原 敏文，佐々木 隆)

功績賞 ；該当なし

奨励賞 ；Minako Terao, Kotaro Tadano

6. 北海道支部

(なし)

7. 東北支部

優秀発表奨励賞

；梅川英之(岩手大学)，田名部義峰(八戸工業大学)，
佐藤雄大(秋田大学)，若生大輔(東北大学)，渡部公樹(山形大学)，
井上順博(弘前大学)，大場裕哉(日本大学)，福瀧僚浩(日本大学)，

- 福田彬人(山形大学)
8. 中部支部
 研究賞 : 原 進(豊田工業大学)
 技術賞 : 伊藤 博, 室崎 隆, 永田 功, 横山宏昭, 大島道博(㈱デンソー)
 奨励賞 : 残間忠直(三重大学), 廣瀬徳晃(名古屋工業大学),
 中島 明(名古屋大学)
9. 北陸支部
 優秀論文発表賞 : 瀬戸洋紀(金沢大学)
10. 関西支部
 (なし)
11. 中国支部
 奨励賞 : 濱元 育(岡山理科大学), 柴山恵司(岡山理科大学),
 田中 豪(山口大学), 吉田 悠(島根大学), 高田大輔(広島大学),
 橋本 望(大阪大学)
12. 四国支部
 (なし)
13. 九州支部
 奨励賞 : 吉原 翼(九州工業大学), 條田賢導(九州大学), 増田公一(佐賀大学),
 右立真輝(熊本大学)

VIII 会 議

1. 総 会 第 46 回定時総会 (07.2.22・東京大学山上会館)
2. 理事会 6 回, 拡大 1 回, 常務理事会 2 回
3. 役員・評議員懇談会 1 回
4. 支部協議会 3 回
5. 賛助会員懇談会 1 回
6. 関連団体懇談会 1 回
7. 各種委員会
 - 企画委員会 (3 回)
 - 倫理綱領・行動規範策定委員会 (3 回)
 - 会員・広報委員会 (5 回)
 - 学会賞委員会 (4 回)
 - フェロー選考委員会 (1 回)
 - 部門協議会 (7 回, 打合せ 3 回)
 - 国際委員会 (6 回)
 - SICE Annual Conference 2007 in Takamatsu (実行委員会 2 回, WG5 回)
 - SICE Annual Conference 2008 in Chofu, Tokyo (実行委員会 11 回)
 - IMEKO 委員会 (1 回)
 - 事業委員会 (6 回)
 - 教育・認定委員会 (6 回, WG7 回)
 - プロセス塾委員会 (2 回)
 - 会誌編集委員会 (6 回, WG11 回, 特別 1 回)
 - 論文集委員会 (7 回, WG5 回)
 - 産業論文委員会 (1 回, 打合せ 1 回)
 - 英文論文集準備委員会 (5 回, 打合せ 1 回)
 - 総務委員会 (7 回, 拡大 1 回)
 - IT・学会モデル委員会 (3 回, 打合せ 1 回)
 - 将来ビジョン委員会
 - ・組込み・ハイブリッドシステム(EHS)調査研究会 (研究会 4 回, フォーラム 1 回)
 - ・SICE City 構築実行委員会 (全体運営委 1 回, 研究会 5 回, 企画行事 2 回)
 - 役員候補者推薦委員会 (2 回)
 - オーラルヒストリー (インタビュー 3 回, 打合せ 4 回)

8. 支部関係

- (1) 北海道支部 総会 1 回, 幹事会 3 回, 評議員会 2 回
- (2) 東北支部 総会 1 回, 運営専門委員会 7 回, 役員・評議員・運営専門委員合同委員会 1 回
- (3) 中部支部 総会 1 回, 幹事会 4 回, 事業委員会 4 回, 拡大事業委員会 1 回
- (4) 北陸支部 総会 1 回, 幹事会 4 回
- (5) 関西支部 総会 1 回, 幹事会 6 回, 特別幹事会 1 回
- (6) 中国支部 総会 1 回, 役員会 3 回, 拡大幹事会 1 回
- (7) 四国支部 総会 1 回, 役員会 2 回
- (8) 九州支部 総会 1 回, 役員会 4 回, 評議員会 1 回, 事業委員会 2 回

IX その他

1. 国際関係

- (1) 国際計測連合(IMEKO)への協力
- (2) 国際自動制御連盟(IFAC)への協力
- (3) ISA, CIS, IEEE, ICROS, CAA, CACS との交流
- (4) 来日外国学識者との交流
- (5) APFICS への協力

2. 国内関係

- (1) 日本工学会など関連学協会への協力(事業協賛, 後援などを含む)
- (2) システム制御情報学会との事業協力
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合への協力
- (4) JABEE への協力
- (5) 日本工学会技術者能力開発(PDE)協議会委員会への協力

収 支 計 算 書 総 括 表

平成 19 年 1 月 1 日 から
平成 19 年 12 月 31 日 まで

学会総括表用		計測自動制御学会合計	本 部	会 計 部	門 部	合 計 部	計 部	合 計	内部取引消去			(単位：円)
科目	部門											
I	収入の部											
1.	基本財産運用収入	78,868		78,868				0	0			
2.	会費収入	93,556,825		93,556,825				0	0			
3.	事業収入	111,632,094		72,842,397		34,894,453		3,895,244	0			
4.	寄付金収入	0		0		0		0	0			
5.	雑収入	8,725,837		7,995,151		632,670		98,016	0			
6.	固定資産売却収入	0		0		0		0	0			
7.	基金特定預金取崩収入	8,415,376		7,054,884		668,781		691,711	0			
8.	繰入金収入	0		5,488,197		9,014,500		13,699,536	Δ 28,202,233			
当期収入合計 (A)		222,409,000		187,016,322		45,210,404		18,394,507	Δ 28,202,233			
前期繰越収支差額		61,593,216		42,533,595		14,676,297		4,383,324	0			
収入合計 (B)		284,002,216		229,549,917		59,886,701		22,767,831	Δ 28,202,233			
II	支出の部											
1.	事業費	142,755,549		99,395,001		33,539,808		9,820,740	0			
2.	管理費	77,314,943		69,548,677		1,762,482		5,983,784	0			
3.	固定資産取得支出	0		0		0		0	0			
4.	基本財産繰入金支出	0		0		0		0	0			
5.	基金特定預金支出	1,458,743		946,298		336,658		176,787	0			
6.	繰入金支出	0		22,714,036		4,767,325		720,872	Δ 28,202,233			
7.	予備費	0		0		0		0	0			
当期支出合計 (C)		221,529,235		192,604,012		40,426,273		16,701,183	Δ 28,202,233			
当期収支差額 (A)-(C)		879,765	Δ	5,587,690		4,764,131		1,683,324	0			
次期繰越収支差額 (B)-(C)		62,472,981		36,945,905		19,460,428		6,066,643	0			

正味財産増減計算書総括表

[ストック式]

平成19年1月1日から
平成19年12月31日まで

(単位：円)

学会総括表用		計測自動制御学会合計	本部	会計部	部門	合計	支出	部合計	合計
科目	部門								
I 増加の部									
1 資産増加額		879,765		0		4,784,131		1,683,324	
資産増減差額		2,338,508		946,298		5,120,789		1,859,111	
2 負債減少額		0		0		0		0	
負債増減差額		2,338,508		946,298		5,120,789		1,859,111	
増加の部合計									
II 減少の部									
1 資産減少額		0		5,587,690		0		0	
資産増減差額		11,396,712		15,608,637		668,781		706,984	
2 負債増加額		110,922		110,922		0		0	
負債増減差額		11,507,634		15,719,559		668,781		706,984	
減少の部合計									
当期正味財産増加額		△ 9,169,126	△	14,773,261		4,452,008		1,152,127	
前期繰越正味財産額		303,192,282		232,750,202		41,485,446		28,955,634	
期末正味財産合計額		294,023,156		217,976,941		45,937,454		30,108,761	

貸借対照表 総括表

平成 19 年 12 月 31 日 現在

(単位：円)

学会総括表用		部門	計測自動制御学会合計	本部	会計部	部門合計	合計	支部	合計			
科目	部											
I 資産の部												
1 流動資産												
流動資産合計			90,928,053	58,698,971		25,476,686			6,752,396			
2 固定資産												
(1) 基本財産			19,000,000	19,000,000		0			0			
(2) その他の固定資産												
基本財産合計												
その他の固定資産合計			251,062,099	200,542,960		26,477,026			24,042,113			
固定資産合計			270,062,099	219,542,960		26,477,026			24,042,113			
資産合計			360,990,152	278,241,931		51,953,712			30,794,509			
II 負債の部												
1 流動負債												
流動負債合計			28,455,072	21,753,066		6,016,258			685,748			
2 固定負債												
固定負債合計			38,511,924	38,511,924		0			0			
負債合計			66,966,996	60,264,990		6,016,258			685,748			
III 正味財産の部												
正味財産			294,023,156	217,976,941		45,937,454			30,108,761			
負債及び正味財産合計			360,990,152	278,241,931		51,953,712			30,794,509			

平成 19 年度財産目録総括表

平成 19 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目		金 額	
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現 金	現金手許残高	1,353,245	
普通預金	三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	3,468,829	
普通預金	三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	0	
"	住友信託銀行東京営業部	9,896,528	
"	"	1,642,191	
"	"	4,732	
定期預金	"	2,000,000	
"	"	4,000,000	
普通預金	みずほ銀行本郷支店	8,933,151	
"	"	1,531,507	
郵便振替	00160-9-127863	2,354,668	
普通預金	みずほ銀行 本郷支店	6,659,426	
"	三井住友銀行 小石川支店	10,791,979	
"	北洋銀行 北七条支店	1,532	
"	三井住友銀行 広島支店	454,723	
"	阿波銀行 助任橋支店	0	
通常預金	ゆうちょ銀行 徳島住吉郵便局	266,500	
郵便振替	00130-7-581382	5,013,656	
普通預金	みずほ銀行 札幌支店	321,545	
"	七十七銀行 仙台本店	293,950	
"	三井住友銀行 本山支店	0	
"	北國銀行 杜の里出張所	279,332	
"	みずほ銀行 堂島支店	607,280	
"	広島銀行 西条南支店	1,304,064	
"	百十四銀行 志度支店	158,099	
"	福岡銀行 姪浜支店	1,606,336	
未 収 金		18,875,588	
(会費, 論文集代, 会誌別刷料, 論文別刷料, 部門支部行事参加費, 交付金等)			
前 払 金		5,163,560	
立 替 金		870,720	
仮 払 金		3,074,912	
(SICE2008, 部門事業費仮払い分等)			
流動資産合計			90,928,053
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基 本 金		19,000,000	
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 定期預金)			
基本財産合計		19,000,000	
(2) その他の固定資産			
建 物		48,356,445	
什器備品		1,291,237	

退職給与引当預金 (住友信託銀行東京営業部 信託預金, 定期預金, 普通預金)	33,511,924
記念事業引当預金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, 三菱東京 UFJ 銀行春日町支店 定期預金)	15,314,492
IT 化推進引当預金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, みずほ銀行本郷支店 普通預金, 三菱東京 UFJ 銀行春日町支店 定期預金)	5,161,073
事務所営繕引当預金 (住友信託銀行東京営業部 普通預金)	3,341,961
出版基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, みずほ銀行本郷支店 定期預金, 普通預金)	19,902,886
国際交流振興基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, 三井住友銀行小石川支店 定期預金, 普通預金)	33,742,796
産学協同事業推進基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金)	10,083,560
蓮沼賞基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金)	1,632,469
友田賞基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金)	1,464,137
武田賞基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金)	21,778,569
預り保証金引当預金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金)	5,000,000
計測部門調査研究会振興基金 (みずほ銀行本郷支店 定期預金, 普通預金)	1,412,081
制御部門未来開拓基金 (三菱東京 UFJ 銀行春日町支店 普通預金)	7,987,344
システム・情報部門 FAN シンポジウム基金 (三菱東京 UFJ 銀行春日町支店 定期預金)	758,280
システム・情報部門自律分散システム部会シンポジウム基金 (みずほ銀行本郷支店 定期預金)	525,919
システム・情報部門基盤創成基金 (みずほ銀行本郷支店 普通預金)	4,406,960
SI 部門インテグレーション基盤開拓基金 (みずほ銀行本郷支店 定期預金, 普通預金)	7,919,046
SI 部門インテグレーション戦略事業基金 (みずほ銀行本郷支店 普通基金)	2,003,145
産業応用部門産業振興活動支援基金 (みずほ銀行本郷支店 普通基金)	1,464,251
北海道支部学術活動推進基金 (北洋銀行 北七条支店 普通預金)	1,707,248
東北支部記念事業基金 (七十七銀行 南八木山支店 普通預金)	309,236
中部支部記念事業基金 (三井住友銀行 本山支店 定期預金)	2,557,332
中部支部支部賞事業基金	1,395,113

(三井住友銀行 本山支店 定期預金)			
北陸支部学術活動推進基金	3,105,019		
(ゆうちょ銀行 通常郵便貯金)			
関西支部記念事業基金	6,687,496		
(りそな銀行 梅田支店 普通預金)			
中国支部学術講演会振興基金	2,407,716		
(広島銀行西条南支店 普通預金)			
中国支部産学交流振興基金	2,849,639		
(広島銀行西条南支店 普通預金)			
四国支部講演会基金	1,471,727		
(四国銀行 山田支店 普通預金)			
九州支部学術活動推進基金	1,201,676		
(福岡銀行 姪浜支店 普通預金)			
九州支部奨励賞基金	311,322		
(福岡銀行 姪浜支店 普通預金)			
その他の固定資産合計	251,062,099		
固定資産合計		270,062,099	
資産合計			360,990,152
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	15,291,215		
(会誌・論文集 11,12月号, 部門・支部事業費, 一般会計繰入金, 消費税相当額等)			
前受金	2,535,295		
(20年度会費・論文集代予納分, 次年度事業参加費分)			
預り金	9,818,234		
(社会保険料・源泉徴収税預り分, IFAC口座, 連合講演会口座等)			
仮受金	810,328		
(返金, 保留分等)			
流動負債合計		28,455,072	
2. 固定負債			
退職給与引当金	33,511,924		
預り保証金	5,000,000		
(広告料保証金)			
固定負債合計		38,511,924	
負債合計			66,966,996
正味財産			294,023,156

証 明 書

社団法人 計測自動制御学会における平成19年度収支計算書および財産目録は、監査の結果、事実と相違ないことを証明します。

平成20年2月6日

(社)計測自動制御学会 監事 水 野 直 樹 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 小 島 史 男 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 河 野 克 己 ⑩

証 明 書

社団法人 計測自動制御学会の平成 19 年 12 月 31 日現在における資産総額は 360,990,152 円であることを証明します。

平成 20 年 2 月 6 日

(社)計測自動制御学会 監事 水 野 直 樹 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 小 島 史 男 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 河 野 克 己 ⑩

収 支 計 算 書

平成 19 年 1 月 1 日 から

平成 19 年 12 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 収入の部				
基本財産運用収入				
基本財産運用収入	16,000	78,868	△ 62,868	
小 計	16,000	78,868	△ 62,868	
会費収入				
正会員会費収入	71,050,000	70,255,900	794,100	
学生会員会費収入	3,050,000	2,839,125	210,875	
賛助会員会費収入	20,120,000	20,461,800	△ 341,800	
小 計	94,220,000	93,556,825	663,175	
事業収入				
広告収入	6,500,000	5,052,390	1,447,610	
論文集収入	36,300,000	31,937,610	4,362,390	
産業論文収入	200,000	270,000	△ 70,000	
Annual Conference収入	16,420,000	22,085,718	△ 5,665,718	
委員会事業収入	3,450,000	4,567,000	△ 1,117,000	
総会懇親会収入	100,000	112,000	△ 12,000	
計測制御エンジニア収入	350,000	455,000	△ 105,000	
プロセス塾収入	3,000,000	4,000,000	△ 1,000,000	
海外渡航者費用負担分収入	500,000	0	500,000	
会誌論文集収入	9,100,000	8,740,679	359,321	
教材 (CD)頒布収入	250,000	189,000	61,000	
小 計	72,720,000	72,842,397	△ 122,397	
寄付金収入				
小 計	0	0	0	
雑収入				
受取利息	115,000	447,193	△ 332,193	
国際会議分配金収入	1,000,000	753,275	246,725	
会誌翻訳著作権収入	420,000	777,673	△ 357,673	
雑収入	6,500,000	6,017,010	482,990	
小 計	8,035,000	7,995,151	39,849	
固定資産売却収入				
小 計	0	0	0	
特定預金取崩収入				
IT化推進引当預金取崩収入	5,900,000	4,641,715	1,258,285	
事務営繕引当預金取崩収入	200,000	23,496	176,504	
出版基金取崩収入	5,000,000	0	5,000,000	
国際交流振興基金取崩収入	3,200,000	2,187,023	1,012,977	
蓮沼賞基金取崩収入	120,000	112,580	7,420	
友田賞基金取崩収入	120,000	45,035	74,965	
武田賞基金取崩収入	120,000	45,035	74,965	
小 計	14,660,000	7,054,884	7,605,116	
繰入金収入				
特別会計繰入金収入(部門)	3,166,358	5,488,197	△ 2,321,839	
支部からの収入	48,744	720,872	△ 672,128	
部門からの収入	2,949,885	4,767,325	△ 1,817,440	
消費税相当額、その他	167,729	0	167,729	
小 計	3,166,358	5,488,197	△ 2,321,839	
当期収入合計(A)	192,817,358	187,016,322	5,801,036	
前期繰越収支差額	42,533,595	42,533,595	0	

収 支 計 算 書

平成 19 年 1 月 1 日 から
平成 19 年 12 月 31 日 まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
収 入 合 計 (B)	235,350,953	229,549,917	5,801,036	

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
Ⅱ 支出の部				
事業費				
会誌発行費	37,114,000	38,831,908	△ 1,717,908	
印刷費	21,700,000	20,831,509	868,491	
通信運搬費	7,100,000	7,178,254	△ 78,254	
原稿料	1,314,000	1,229,375	84,625	
会誌編集委員会編集費	7,000,000	9,592,770	△ 2,592,770	
論文集発行費	21,080,000	17,974,355	3,105,645	
印刷費	11,200,000	9,767,497	1,432,503	
通信運搬費	2,000,000	1,962,500	37,500	
論文集編集委員会編集費	7,880,000	6,244,358	1,635,642	
産業論文発行費	550,000	673,661	△ 123,661	
英文論文集発行費	1,000,000	1,163,260	△ 163,260	
Annual Conference費	14,235,000	19,534,396	△ 5,299,396	
委員会事業費	10,350,000	8,664,151	1,685,849	
広報活動費	100,000	83,265	16,735	
SICE Week費	500,000	456,152	43,848	
総会懇親会費	250,000	250,000	0	
計測制御エンジニア費	350,000	244,390	105,610	
国際委員会活動費	1,700,000	1,170,181	529,819	
会員委員会活動費	250,000	187,314	62,686	
事業委員会活動費	250,000	513,880	△ 263,880	
教育認定委員会活動費	250,000	369,861	△ 119,861	
企画委員会活動費	2,100,000	1,109,586	990,414	
TF活動費	300,000	8,000	292,000	
支部協議会活動費	1,300,000	1,312,009	△ 12,009	
プロセス塾委員会活動費	3,000,000	2,959,513	40,487	
海外渡航調査費	500,000	0	500,000	
学術交流会合費	200,000	197,735	2,265	
共催事業分担金	1,000,000	1,248,606	△ 248,606	
フェロー関係費	150,000	178,140	△ 28,140	
学会賞費	4,300,000	4,752,313	△ 452,313	
事業運営IT化推進費	5,900,000	4,640,875	1,259,125	
電子アーカイブ作成費	5,000,000	0	5,000,000	
支払消費税等	1,250,000	1,356,300	△ 106,300	
事業未収金回収不能額	300,000	179,301	120,699	
小 計	102,929,000	99,395,001	3,533,999	
管理費				
人件費	43,600,000	46,826,114	△ 3,226,114	
給与手当	31,400,000	34,428,164	△ 3,028,164	
福利厚生費	5,600,000	6,040,796	△ 440,796	
事務処理費	6,600,000	6,357,154	242,846	
旅費交通費	1,850,000	1,856,840	△ 6,840	
通信運搬費	3,000,000	2,818,729	181,271	
消耗品費	2,300,000	2,665,289	△ 365,289	
印刷製本費	500,000	760,190	△ 260,190	
事務所費	3,800,000	3,664,961	135,039	
修繕費	200,000	23,496	176,504	
総会費	1,750,000	1,672,828	77,172	
理事会費	2,000,000	2,530,338	△ 530,338	
会議費	150,000	263,333	△ 113,333	
OA関係諸雑費	1,150,000	935,445	214,555	
公認会計士謝礼	525,000	525,000	0	

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
雑費	650,000	861,558	△ 211,558	
会費自動引落費	515,000	509,356	5,644	
OA機器購入費	30,000	0	30,000	
会費還元費	100,000	61,700	38,300	
会費未収金回収不能額	3,200,000	3,573,500	△ 373,500	
小 計	65,320,000	69,548,677	△ 4,228,677	
固定資産取得支出				
什器備品購入支出	300,000	0	300,000	
小 計	300,000	0	300,000	
基本財産繰入金支出				
基本財産繰入支出	0	0	0	
小 計	0	0	0	
特定預金支出				
退職給与引当預金支出	30,000	110,922	△ 80,922	
記念事業引当預金支出	5,000	35,905	△ 30,905	
IT化推進引当預金支出	10,000	25,860	△ 15,860	
事務所営繕引当預金支出	10,000	7,535	2,465	
出版基金支出	300,000	292,644	7,356	
国際交流振興基金支出	500,000	357,955	142,045	
産学協同事業推進基金支出	10,000	28,759	△ 18,759	
蓮沼賞基金支出	300	2,670	△ 2,370	
友田賞基金支出	300	2,369	△ 2,069	
武田賞基金支出	15,000	81,679	△ 66,679	
小 計	880,600	946,298	△ 65,698	
繰入金支出				
支部への支出	12,785,400	13,619,536	△ 834,136	
部門への支出	9,500,000	9,000,000	500,000	
事業未収回収不能引当支出	50,000	94,500	△ 44,500	
小 計	22,335,400	22,714,036	△ 378,636	
予備費	200,000	0	200,000	
当期支出合計(C)	191,965,000	192,604,012	△ 639,012	
当期収支差額(A)-(C)	852,358	△ 5,587,690	6,440,048	
次期繰越収支差額(B)-(C)	43,385,953	36,945,905	6,440,048	

正 味 財 産 増 減 計 算 書

平成 19 年 1 月 1 日 から

平成 19 年 12 月 31 日 まで

[ストック式]

(単位：円)

科 目	金	額
I 増加の部		
1 資産増加額		
退職給与引当預金増加額	110,922	
記念事業引当預金増加額	35,905	
IT化推進引当預金増加額	25,860	
事務所営繕引当預金増加額	7,535	
出版基金増加額	292,644	
国際交流振興基金増加額	357,955	
産学協同事業推進基金増加額	28,759	
蓮沼賞基金増加額	2,670	
友田賞基金増加額	2,369	
武田賞基金増加額	81,679	
資産増加額		946,298
2 負債減少額		
負債減少額		0
増加の部合計		946,298
II 減少の部		
1 資産減少額		
当期収支差額	5,587,690	
建物減価償却額	2,278,576	
什器備品減価償却額	687,487	
IT化推進引当預金取崩額	4,641,715	
事務所営繕引当預取崩額	23,496	
国際交流振興基金取崩額	2,187,023	
蓮沼賞基金取崩額	112,580	
友田賞基金取崩額	45,035	
武田賞基金取崩額	45,035	
資産減少額		15,608,637
2 負債増加額		
退職給与引当金繰入額	110,922	
負債増加額		110,922
減少の部合計		15,719,559
当期正味財産増加額		△ 14,773,261
前期繰越正味財産額		232,750,202
期末正味財産合計額		217,976,941

貸 借 対 照 表

平成 19 年 12 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	34,345,160	
未収金	16,944,619	
前払金	5,163,560	
立替金	870,720	
仮払金	1,374,912	
流動資産合計		58,698,971
2 固定資産		
基本財産		
基本財産信託預金	19,000,000	
基本財産合計	19,000,000	
その他の固定資産		
建物	88,000,000	
建物減価償却累計額	△ 39,643,555	
什器備品	15,061,020	
什器備品減価償却累計額	△ 13,808,372	
退職給与引当預金	33,511,924	
記念事業引当預金	15,314,492	
IT化推進引当預金	5,161,073	
事務所営繕引当預金	3,341,961	
出版基金	19,902,886	
国際交流振興基金	33,742,796	
産学協同事業推進基金	10,083,560	
蓮沼賞基金	1,632,469	
友田賞基金	1,464,137	
武田賞基金	21,778,569	
預り保証金引当預金	5,000,000	
その他の固定資産合計	200,542,960	
固定資産合計		219,542,960
資産合計		278,241,931
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	9,646,087	
前受金	2,211,295	
預り金	9,818,234	
仮受金	77,450	
流動負債合計		21,753,066
2 固定負債		
退職給与引当金	33,511,924	
預り保証金	5,000,000	
固定負債合計		38,511,924
負債合計		60,264,990

貸 借 対 照 表

平成 19 年 12 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	金 額		
Ⅲ 正味財産の部			
正味財産			217,976,941
(うち基本金)			(19,000,000)
(うち当期正味財産増加)			(△ 14,773,261)
負債及び正味財産合計			278,241,931

平成19年度財産目録（一般会計）

平成19年12月31日

(単位：円)

科 目		金 額	
I.資産の部			
1. 流動資産			
現 金	現金手許残高	513,554	
普通預金	三菱東京UFJ銀行本郷支店	3,468,829	
"	三菱東京UFJ銀行春日町支店	0	
"	住友信託銀行東京営業部	9,896,528	
"	"	1,642,191	
"	"	4,732	
定期預金	"	2,000,000	
"	"	4,000,000	
普通預金	みずほ銀行本郷支店	8,938,151	
"	"	1,531,507	
郵便振替	00160-9-127863	2,354,668	
未収金(会費、論文集代、会誌別刷料、論文別刷料、部門からの収入、支部からの収入等)		16,944,619	
前払金		5,163,560	
立替金		870,720	
仮払金(SICE Annual Conference2008等)		1,374,912	
流動資産合計			58,698,971
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
(住友信託銀行東京営業部 定期預金)		19,000,000	
基本財産合計		19,000,000	
(2) その他の固定資産			
建 物		48,856,445	
什器備品		1,252,648	
退職給与引当預金		33,511,924	
(住友信託銀行東京営業部 信託預金、定期預金、普通預金)			
記念事業引当預金		15,814,492	
(住友信託銀行東京営業部 定期預金、普通預金、三菱東京UFJ銀行春日町支店 定期預金)			
IT化推進引当預金		5,161,073	
(住友信託銀行東京営業部 定期預金、普通預金、みずほ銀行本郷支店 普通預金、三菱東京UFJ銀行春日町支店 定期預金)			
事務所管理引当預金		3,341,961	
(住友信託銀行東京営業部 普通預金)			
出版基金		19,902,886	
(住友信託銀行東京営業部 定期預金、普通預金 みずほ銀行本郷支店 定期預金、普通預金)			
国際交流振興基金		33,742,796	
(住友信託銀行東京営業部 定期預金、普通預金、三井住友銀行小石川支店 定期預金、普通預金)			
産学協同事業推進基金		10,088,560	
(住友信託銀行東京営業部 定期預金、普通預金)			
蓮沼賞基金		1,632,469	
(住友信託銀行東京営業部 定期預金、普通預金)			
友田賞基金		1,464,137	
(住友信託銀行東京営業部 定期預金、普通預金)			
武田賞基金		21,778,569	
(住友信託銀行東京営業部 定期預金、普通預金)			
預り保証金引当預金		5,000,000	
(住友信託銀行東京営業部 定期預金)			
その他の固定資産合計		200,542,960	
固定資産合計			219,542,960
資産合計			278,241,931
II.負債の部			
1. 流動負債			
未払金(会誌・論文集11, 12月号等)		9,646,087	
前受金(20年度会費、論文集代予納分等)		2,211,295	
預り金(社会保険料・源泉徴収税預り分、IFAC口座、連合講演会口座等)		9,818,234	
仮受金(返金、保留分等)		77,450	
流動負債合計			21,753,066
2. 固定負債			
退職給与引当金		33,511,924	
預り保証金(広告料保証金)		5,000,000	
固定負債合計			38,511,924
負債合計			60,264,990
正味財産			217,976,941

計算書類に対する注記（平成 19 年度一般会計）

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は、法人税法に定める定率法によっている。
- (2) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は、期末要支給額を計上している。
- (3) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、立替金、仮払金、未払金、前受金、預り金及び仮受金を含めている。

2. 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定期および信託預金	19,000,000			19,000,000
合 計（基本金）	19,000,000			19,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	46,292,251	34,345,160
未 収 金	15,877,089	16,944,619
前 払 金	40,000	5,163,560
立 替 金	1,188,720	870,720
仮 払 金	1,289,906	1,374,912
合 計	64,687,966	58,698,971
未 払 金	8,544,246	9,646,087
前 受 金	3,356,710	2,211,295
預 り 金	9,921,443	9,818,234
仮 受 金	331,972	77,450
合 計	22,154,371	21,753,066
次期繰越収支差額	42,533,595	36,945,905

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	88,000,000	39,643,555	48,356,445
什器備品	15,061,020	13,808,372	1,252,648
合 計	103,061,020	53,451,927	49,609,093

平成 19 年度一般会計引当預金明細

平成 19 年 1 月 1 日から平成 19 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

収 入	退職給与引当預金	支 出
前期繰越	33,401,002 円	円
受取利息	110,922	
		次期繰越
		33,511,924
合 計	33,511,924	合 計
		33,511,924

(単位：円)

収 入	記念事業引当預金	支 出
前期繰越	15,278,587 円	円
受取利息	35,905	
		次期繰越
		15,314,492
合 計	15,314,492	合 計
		15,314,492

(単位：円)

収 入	IT 化推進引当預金	支 出
前期繰越	9,776,928 円	学会モデル会員向通知用送料 608,155 円
受取利息	25,860	学会モデルマジックコネクト契約費用 56,700
		学会モデル ASP 契約費用 3,780,000
		論文集 IT 化 WG 活動費 196,020
		通信費 840
		次期繰越
		5,161,073
合 計	9,802,788	合 計
		9,802,788

(単位：円)

収 入	事務所営繕引当預金	支 出
前期繰越	3,357,922 円	空調室外機洗浄作業費用 23,496 円
受取利息	7,535	(メゾンドール本郷 3 階共有部分)
		次期繰越
		3,341,961
合 計	3,365,457	合 計
		3,365,457

(単位：円)

収 入	預り保証金引当預金	支 出
前期繰越	5,000,000 円	円
		次期繰越
		5,000,000
合 計	5,000,000	合 計
		5,000,000

注) 欄中外より広告料保証金として預っている。

平成 19 年度一般会計基金明細

平成 19 年 1 月 1 日から平成 19 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

収 入	出 版 基 金	支 出
前期繰越	19,610,242 円	円
印税収入	143,384	
・信号処理 15,315 ・システム制御のためのマトリクス理論 37,842 ・システムのモデリングとシミュレーション 20,492 ・線形ロバスト制御 31,500 ・ロボット制御の実験 38,235		
先端学術シリーズ頒布収入	11,500	
ビデオ講座頒布収入	98,000	
受 取 利 息	39,760	
合 計	19,902,886	次 期 繰 越 19,902,886
		合 計 19,902,886

(単位：円)

収 入	国 際 交 流 振 興 基 金	支 出
前期繰越	35,571,864 円	International Scholarship 300,000 円
国際会議資金貸与戻入	318,000	(・ SICE2007 300,000)
(・ IROS2005 318,000)		国際会議助成金 393,869
		(・ INSS2008 393,869)
		国際会議職員出張費 210,884
		(・ ICCAS2007 210,884)
受 取 利 息	39,955	国際会議賞金支援費 118,170
		(・ IROS2007 118,170)
		英文論文集準備委員会費用 1,162,420
		(・ 旅費,印刷費用等 1,162,420)
		通信費 1,680
合 計	35,929,819	次 期 繰 越 33,742,796
		合 計 35,929,819

(単位：円)

収 入	産 学 協 同 事 業 推 進 基 金	支 出
前期繰越	10,054,801 円	円
受 取 利 息	28,759	
合 計	10,083,560	次 期 繰 越 10,083,560
		合 計 10,083,560

(単位：円)

蓮 沼 賞 基 金		支 出	
収 入			
前期繰越	1,742,379 円	個人賞賞牌	112,580 円
受取利息	2,670		
		次期繰越	1,632,469
合 計	1,745,049	合 計	1,745,049

(単位：円)

友 田 賞 基 金		支 出	
収 入			
前期繰越	1,506,803 円	個人賞賞牌	45,035 円
受取利息	2,369		
		次期繰越	1,464,137
合 計	1,509,172	合 計	1,509,172

(単位：円)

武 田 賞 基 金		支 出	
収 入			
前期繰越	21,741,925 円	個人賞賞牌	45,035 円
受取利息	81,679		
		次期繰越	21,778,569
合 計	21,823,604	合 計	21,823,604